

令和 6 年度

ICT 授業アンケート調査結果

[報告書 抜粋]

国際高等専門学校

令和 6 年度 ICT アンケート調査結果について

ICT 総合アンケートおよび ICT 授業アンケートは、教職員を問わず貴重な意見収集の手段となっており、1 年間の学習成果や学事運営の振り返りと自己評価に必修の資料である。ここでは、2 つの調査結果から FD 会議、学務会議および教員会議等において議論が必要と思われる内容のごく一部について引用した。

ICT 総合アンケートにおける「ICT の満足度」の年度別比較において、令和 3 年度（2021 年）の 55% から令和 5 年度（2023 年）に 90% と過去最高になった。このことは学事運営を含めた ICT の教育全体が学生および教員から評価されている証左である。今回の調査では令和 5 年度を 3.5 ポイント下回ったが、依然として高い満足度であり、この結果を維持するための努力が必要である。「ICT 学生であることの誇り」についても令和 3 年度（2021 年）の 40% からこの 2 年間（R5（2023）～R6（2024））で 80% 近くまで上昇しており、同じく、この状況を維持することが求められる。一方、学校での過ごし方の比較では「カフェテリアの食事」に関してのみマイナススコアとなっている。この結果は前年度調査でも同様であり、喫緊の改善課題であるといえる。

ICT 授業アンケート（授業調査分析報告書）では、基本的集計（全項目）の年度別比較（加重平均）においてすべての項目が令和 5 年度（2023 年）よりも低下している。特に「教員の説明や教え方は分かりやすかった」の項目が前年度より -0.59 と大きく下がっている。この点については FD 会議、学務会議および教員会議において議論する必要がある。「科目についての全項目比較」では、すべての項目で共創科目（エンジニアリングデザイン）が共創科目以外よりも高い値を示しており、ICT のものづくり教育が学生から受け入れられていることがわかる。

教職員各位には調査結果の詳細について報告書を一読していただき、今後の教育や学生支援および業務等の改善の一助としていただきたい。最後に、アンケートに協力していただいたすべての学生、教職員および関係者の皆様方に感謝の意を表します。

令和 7 年 11 月
国際高等専門学校
校長 鹿田正昭

The Results of the ICT Surveys for AY 2024-25

The ICT Class Evaluation Survey and the General Survey are invaluable tools for gathering feedback from both faculty and staff members. They are essential resources for reviewing and self-assessing the academic achievements and administrative operations of the past year. In this section, I have highlighted a small portion of the survey results that merit discussion in FD meetings, Executive Council meetings, and faculty meetings.

In the year-on-year comparison of "Satisfaction with ICT" in the General Survey, the figure rose from 55% in AY 2021 to a record-high 90% in AY 2023. This demonstrates that ICT education, including academic administration, is highly valued by both students and faculty members. Although this year's survey shows a slight decline of 3.5 points compared to AY 2023, satisfaction remains high, and continued efforts are necessary to maintain this level. Similarly, the sense of pride in being an ICT student has increased significantly—from 40% in AY 2021 to nearly 80% over the past two years (AY 2023 to AY 2024). This positive trend must also be sustained. On the other hand, in the comparison of campus life aspects, only "Cafeteria meals" received a negative score. This issue was also noted in the previous survey and should be considered an urgent matter for improvement.

In the ICT Class Evaluation Survey (analysis report on class evaluation), the weighted average comparison of all items across academic years shows a decline in every category compared to AY 2023. Notably, the item "The instructor communicated clearly and was easy to understand" dropped significantly by 0.59 points from the previous year. This matter requires discussion in FD meetings, Executive Council meetings, and faculty meetings. In the comparison of all items by course, all indicators for the co-creation courses (Engineering Design) scored higher than those for other courses, indicating that ICT's hands-on-oriented education is well received by students.

I encourage all faculty and staff members to review the detailed findings in this report and use them as a reference for improving education, student support, and administrative operations. In closing, I would like to express my sincere gratitude to all students, faculty, staff, and all parties involved who cooperated in these surveys.

November 2025

International College of Technology, Kanazawa

Masaaki Shikada, President

1)調査の目的

本調査は下記に挙げる目的に従って実施した。

- 本調査は、国際高等専門学校の学生から、1年間に受けた授業に対する評価と満足度を聞き、現状を把握することを目的としている。
- 一連の分析によって得られた情報を授業の改善に有効活用し、国際高等専門学校全体の教育改善につなげていくことを最終的な目的とする。
- 調査終了直後に作成した「速報版」は、各科目の担当教員が1年間の授業の評価を個別に振り返るためのものであるが、本報告書は全体の傾向を分析し、全体的な改善の方向性を検討するためのものとなる。
- 令和5年度に授業アンケートの質問項目を見直したため、今回は新たな形式での第二回目の報告書となり、年度別比較、同一学生群の比較などが加わっている。

2)調査の概略

調査の概略は下記の通り。

項目	内容			
分析データ件数 科目数、対象者		対象科目数	R6年度 回答数	R6年度 在校生数
	1年次	43科目	592件	12名
	2年次	44科目	844件	20名
	4年次	34科目	172件	6名
	5年次	24科目	109件	9名
	全体合計	145科目	1,717件	47名
実施方法	<ul style="list-style-type: none">・各授業の最終日に20分程度の記入時間をとった。・調査票は学生が回収し、教員ではなく学生が事務局に届けるものとした。・アンケートは記述式とし、回収後即座にデータ入力処理を行った。			
調査主体	学校法人 金沢工業大学			
集計	有限会社 アイ・ポイント			

3) 実施スケジュール

調査のラフスケジュールは下記の通り。

作業	ステップ	時期	備考
速報版作成作業	調査実施	1~2年次:1月16日~1月27日	各授業の最終日に実施
		4~5年次:1月16日~1月27日	
	データ入力	1~2年次:1月28日~2月27日	記述された結果を入力
		4~5年次:1月28日~2月27日	
最終報告書作成作業	速報版完成	3月4日	最終データは2月17日に受け取り
最終報告書作成作業	報告書作成	3月24日	

4) 集計に関して

- 加重平均:各調査項目を年度別、属性毎に比較するため加重平均値を使用している。選択肢は「強くそう思う～そう思わない」などの段階的な選択肢を用いた。加重平均はこれらの選択肢に、+10点、+5点、-5点、-10点を掛けて回答者数で除して算出した。従って、最高点が10点で最低点がマイナス10点となる。「無回答」は回答者数に含めていない。
- 誤差に関して:報告書内のデータの「集計値」や「合計値」は小数点第1位までの表示となっているが、これは小数点第2位を四捨五入したものとなっている。「肯定的な合計値」などもこのルールに従っているため、「集計値」と「合計値」の四捨五入の判断が異なり、最大で0.1の差となっているケースもあるが、これは誤差として、そのままとしている。
- 授業アンケートは全体で14項目であるが、本報告書では「科目毎の個別の質問」「自由記述で聞いている質問」は集計の対象としていない。集計の対象としたのは次項の通り、8項目となる。

5)質問文

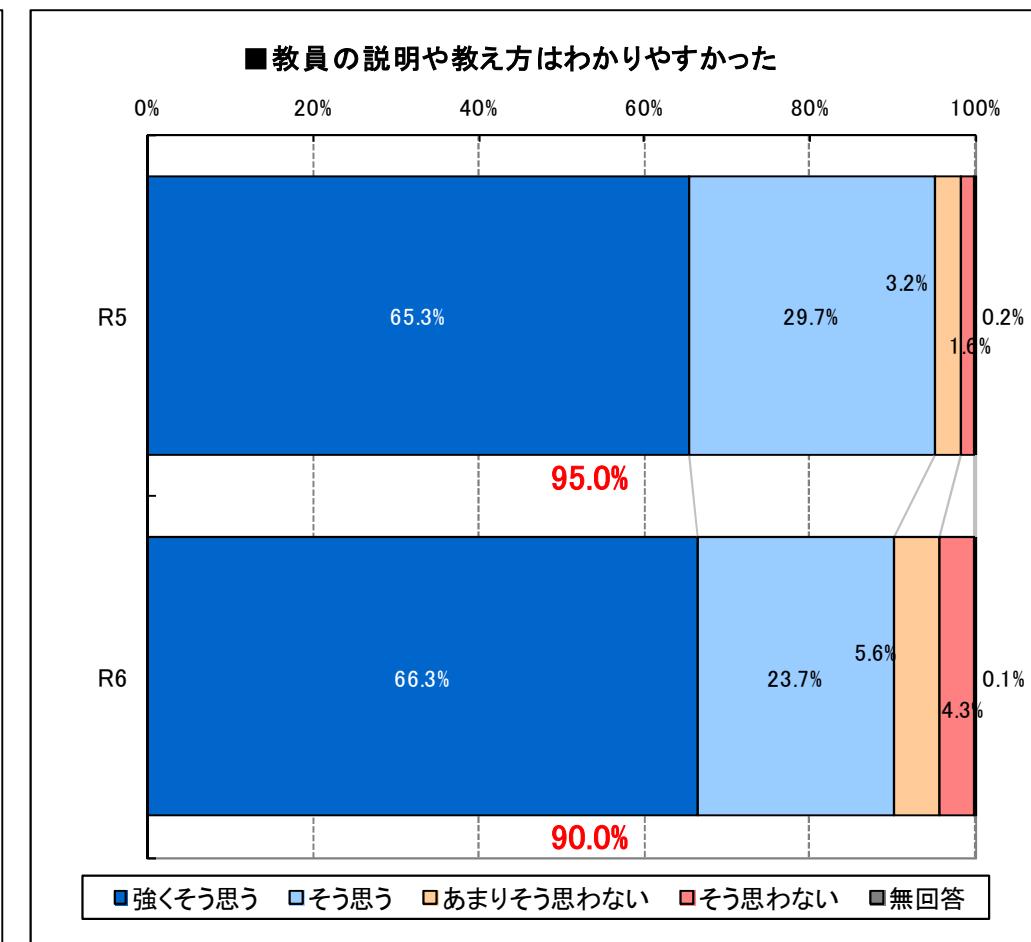
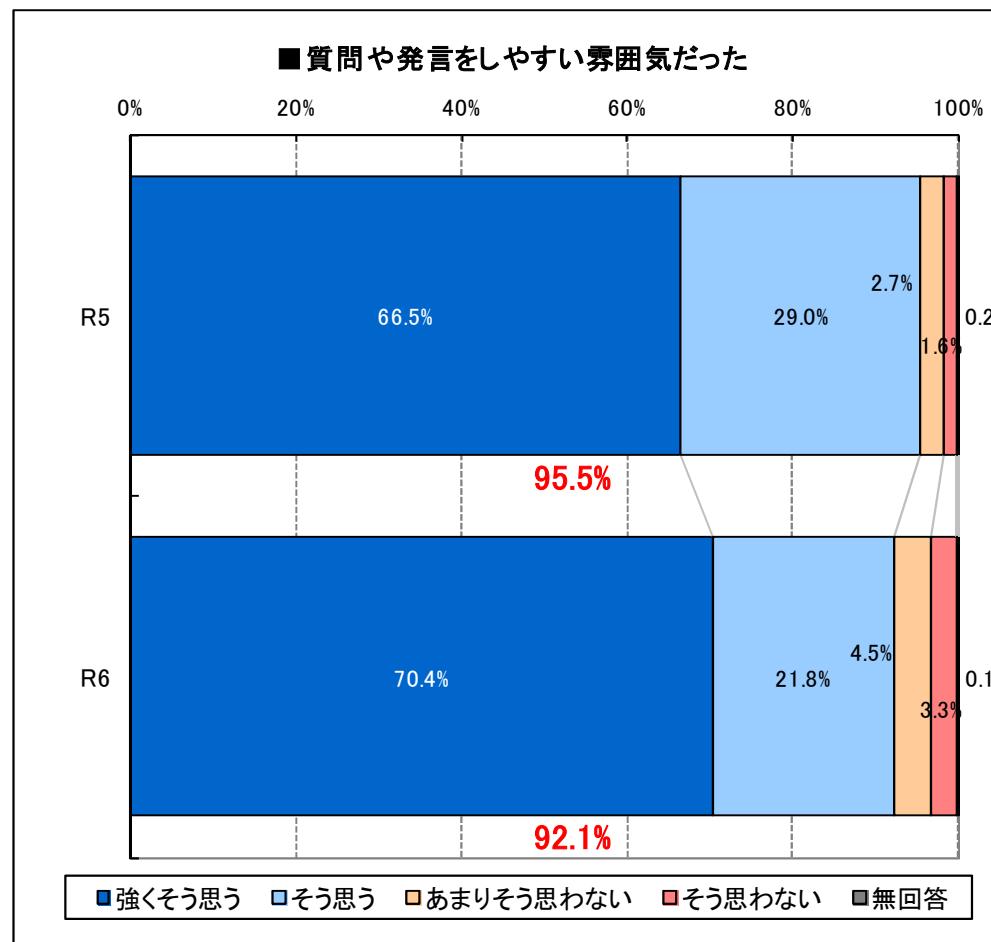
本来の質問文とその省略形、選択肢は下記の通り。

質問番号	質問文	省略形	選択肢	まとめの内容
1	教員は学生を尊重し、学生が質問や発言をしやすい雰囲気や環境をつくっていた。	質問や発言をしやすい雰囲気だった	1.強くそう思う – 2.そう思う – 3.あまりそう思わない – 4.そう思わない	①授業の進め方
2	教員の説明や教え方はわかりやすかった。	教員の説明や教え方はわかりやすかった		
3	学習目標や達成目標および評価方法がシラバスにわかりやすく明記されていた。	学習目標などはシラバスに明記されていた		②シラバスの評価
4	一連の授業はシラバスの内容通りに行われていた。	授業はシラバスに沿っていた		
5	教材や課題は、学習を円滑に進める上で効果的だった。	教材や課題は効果的だった		③教材、課題の評価
6	この科目の1回の授業に対する「予習、復習、課題」などに費やした学習時間は、平均してどのくらいでしたか。1～2年生：ラーニング・セッションの時間も含めてください。	1回の授業に対する学習時間	1.0分～30分 – 2.30分～1時間 – 3.1時間～2時間 – 4.2時間以上	④学習時間
7	この科目に対して積極的に取り組んだ。	科目に積極的に取り組んだ	1.強くそう思う – 2.そう思う – 3.あまりそう思わない – 4.そう思わない	⑤積極性
8	この科目に対して満足している。	科目に満足している		⑥満足度

＜2＞基本的な集計

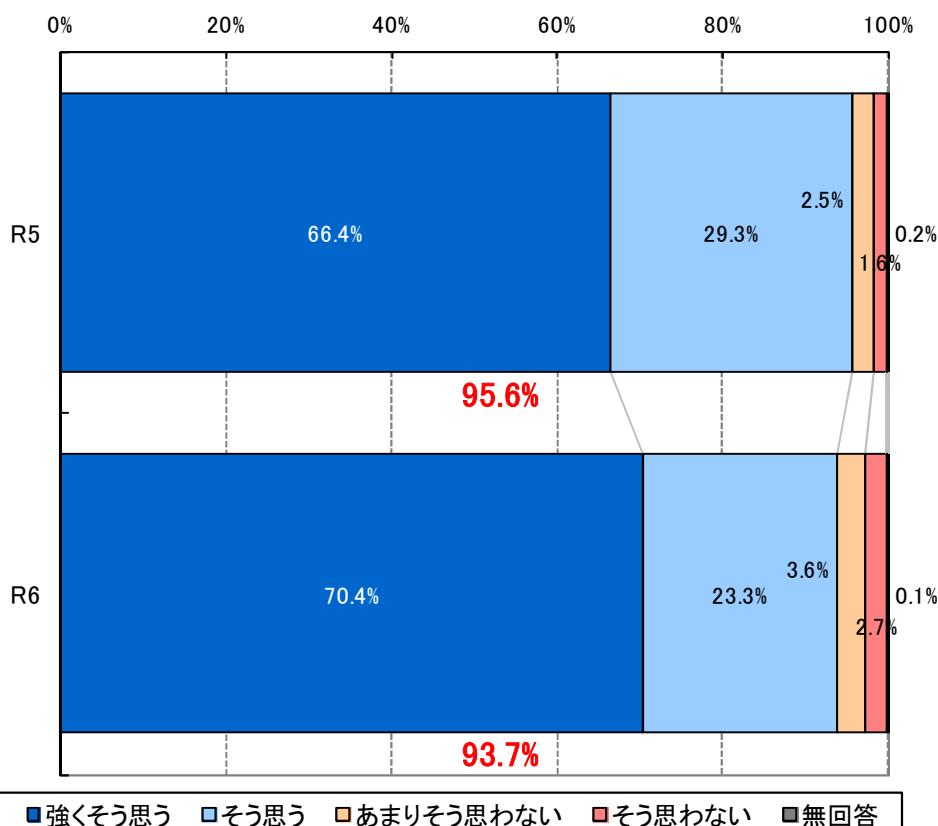
1) 単純集計

- 令和5年度に授業アンケートの質問項目を見直しし、今回が2回目となるため、単純集計は横帯グラフとして前年度との比較ができるようにしている。
 - 「質問や発言をしやすい雰囲気だった」に対しては、「強くそう思う」が70.4%、「そう思う」が21.8%であり、肯定的な意見の合計は92.1%となっていた。前回と比較すると3.4ポイントの減少であったが、「強くそう思う」だけを見ると3.9ポイント増加していた。
 - 「教員の説明や教え方はわかりやすかった」に対しては「強くそう思う」が66.3%、「そう思う」が23.7%で、肯定的な意見の合計は90.0%となり、前回と比較すると5.0ポイントの減少であった。

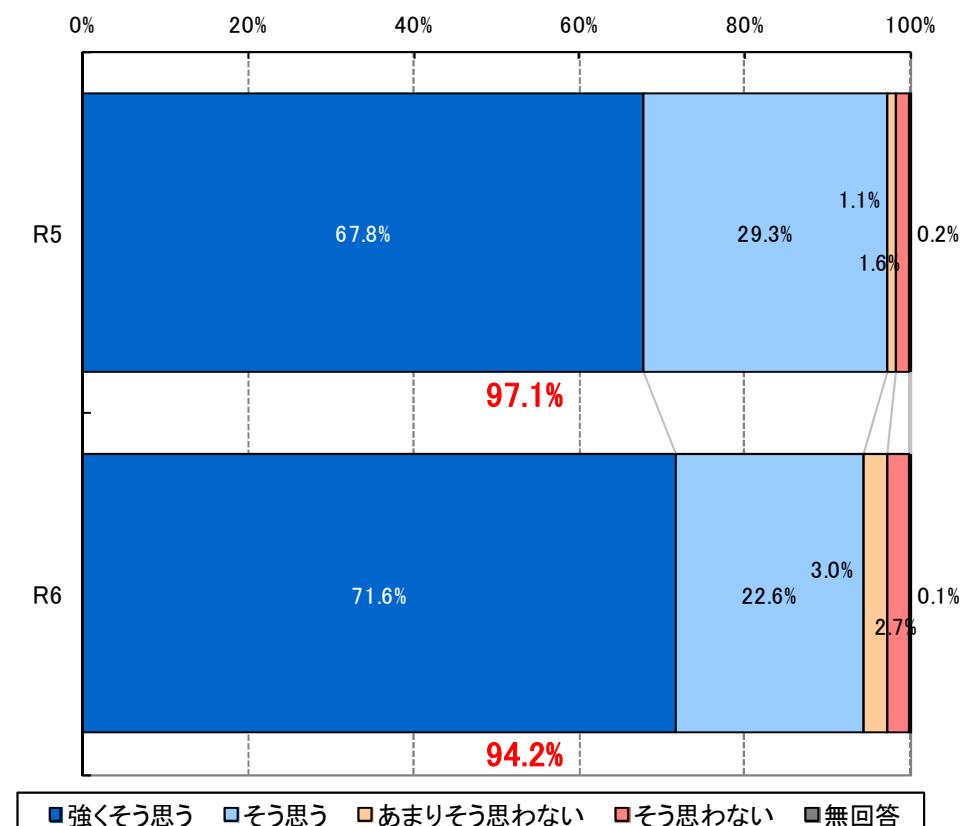


- 「学習目標などはシラバスに明記されていた」に対しては、「強くそう思う」が70.4%、「そう思う」が23.3%であり、肯定的な意見の合計は93.7%となっていた。前回と比べると1.9ポイントとわずかに減少していたが、「強くそう思う」は4.0ポイント増加していた。
- 「授業はシラバスに沿っていた」も「強くそう思う」が71.6%と多く、「そう思う」の22.6%を加えると、肯定的な意見の合計は94.2%となっていた。前回の肯定的な意見は97.1%と非常に多く、今回は2.9ポイント減少していたが、ここでも「強くそう思う」は3.8ポイント増加していた。
- 上記の2項目は「シラバスの評価」に関するものであるが、いずれの評価も非常に高かった。

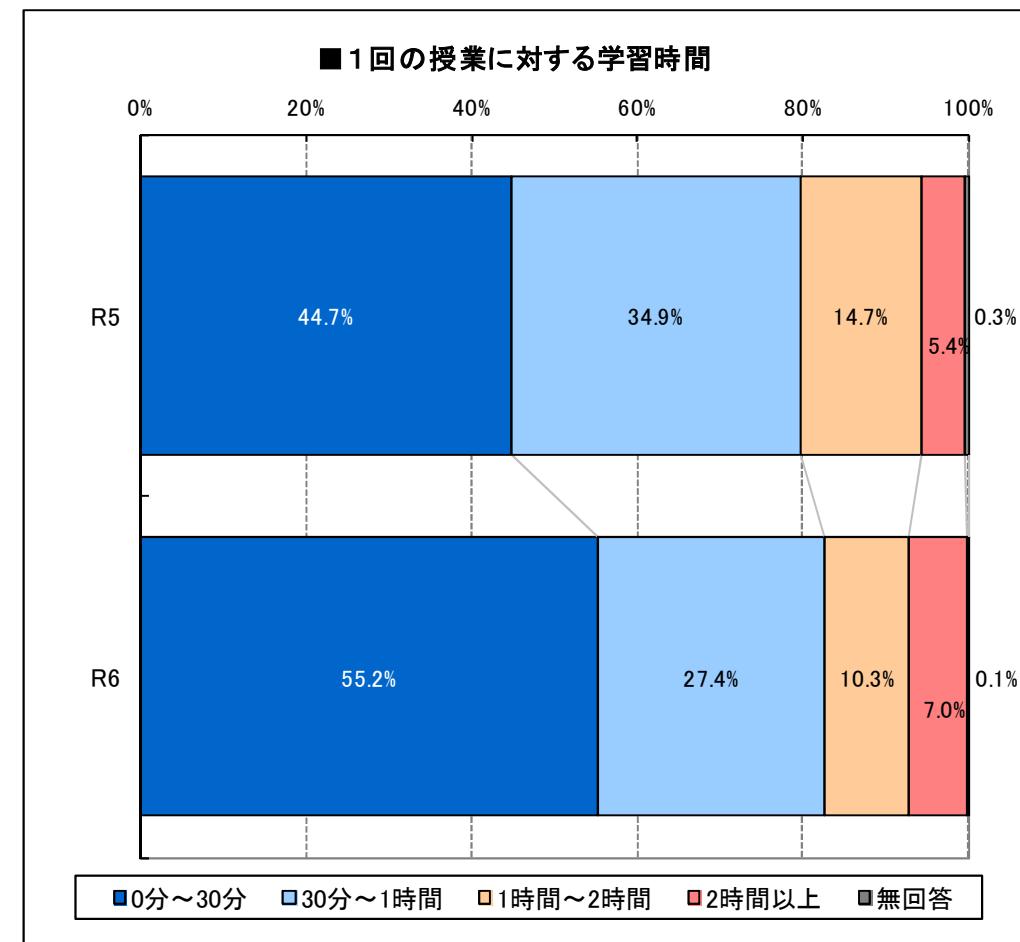
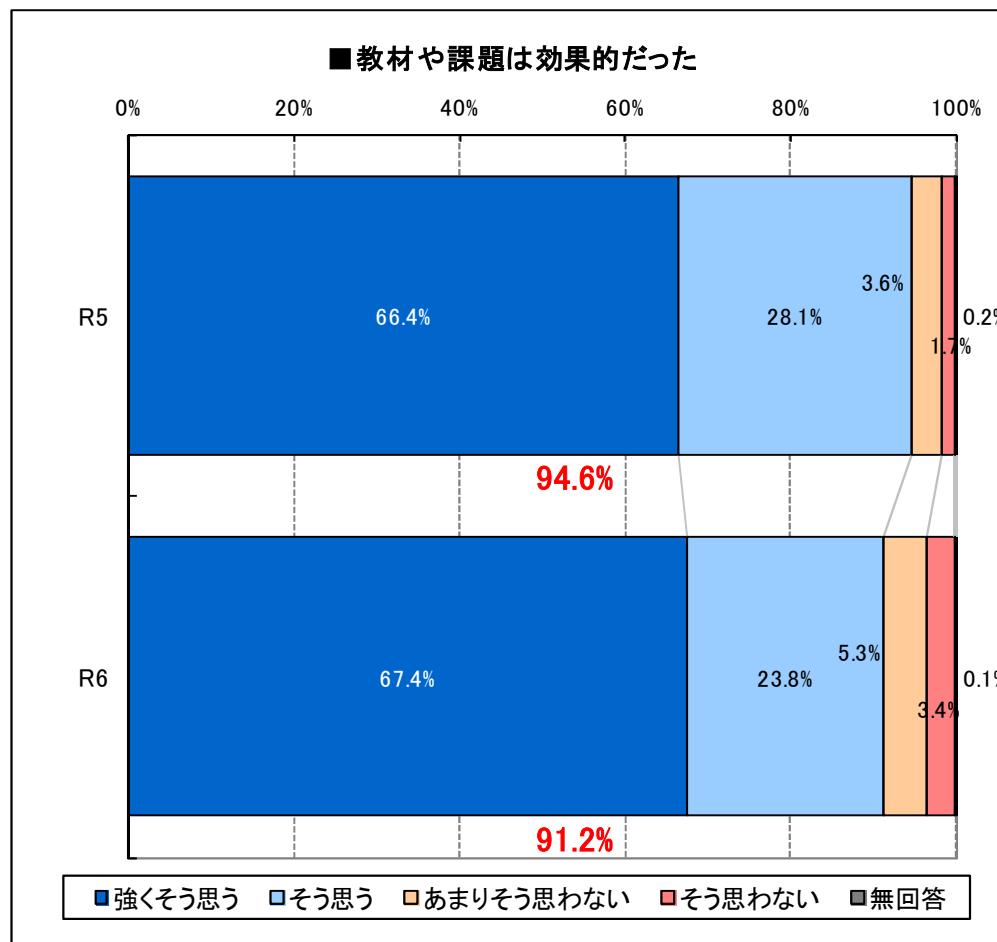
■学習目標などはシラバスに明記されていた



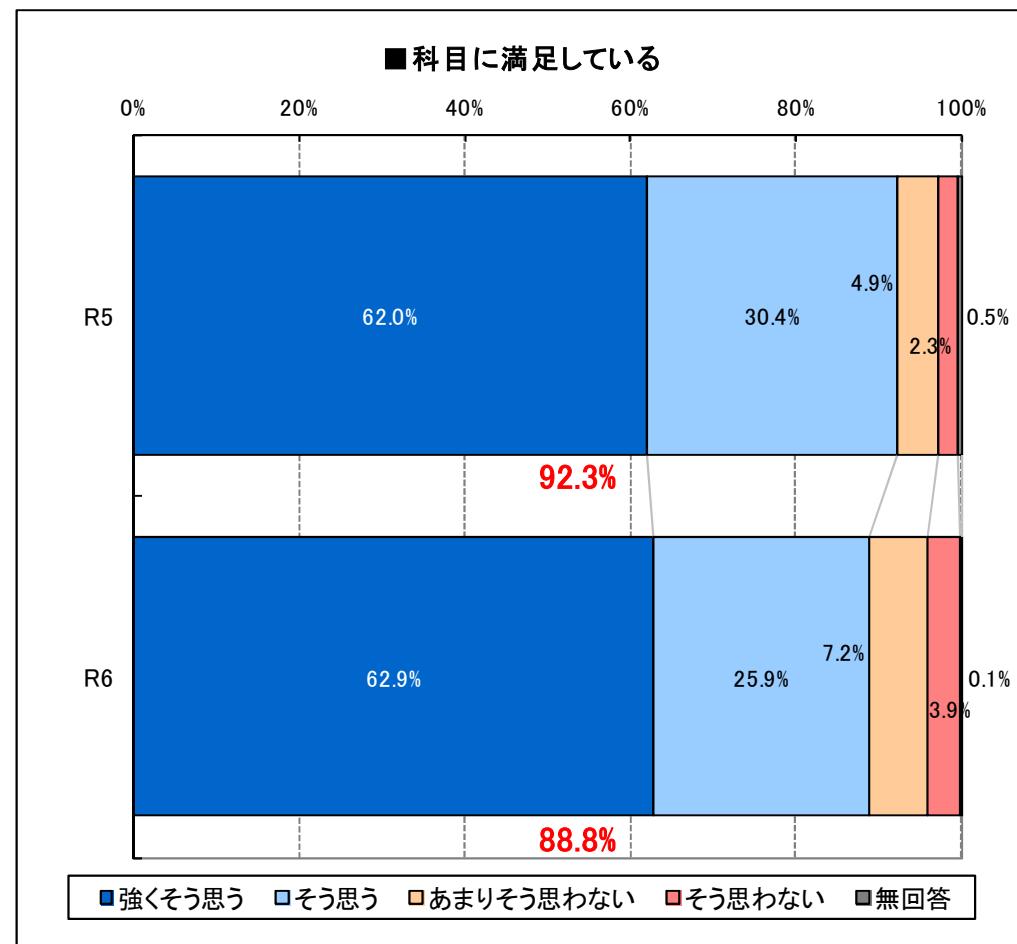
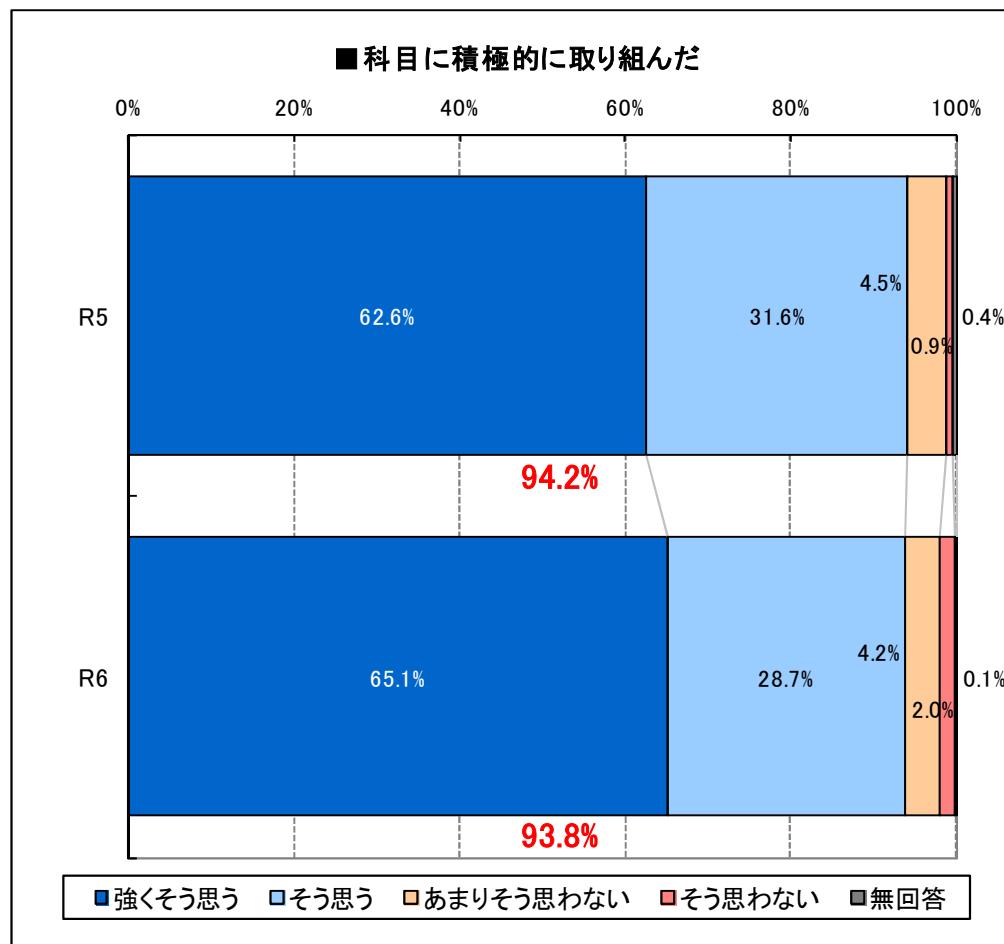
■授業はシラバスに沿っていた



- 「教材や課題は効果的だった」に対しては、「強くそう思う」が67.4%、「そう思う」が23.8%で、肯定的な意見の合計は91.2%となり、前回から3.4ポイントの減少となっていた。ただし、「強くそう思う」だけを見ると1.0ポイントとわずかではあるが増加していた。
- 「1回の授業に対する学習時間」については4つの時間帯で聞いているが、最も短い「0分～30分」が55.2%と半数以上を占めていた。そして、「30分～1時間」が27.4%、「1時間～2時間」が10.3%、最も長い「2時間以上」は7.0%となっていた。前回と比較すると、短い時間帯の「0分～30分」が10.5ポイントと大きく増加している点が目立っていたが、「2時間以上」も1.6ポイント増加していた。

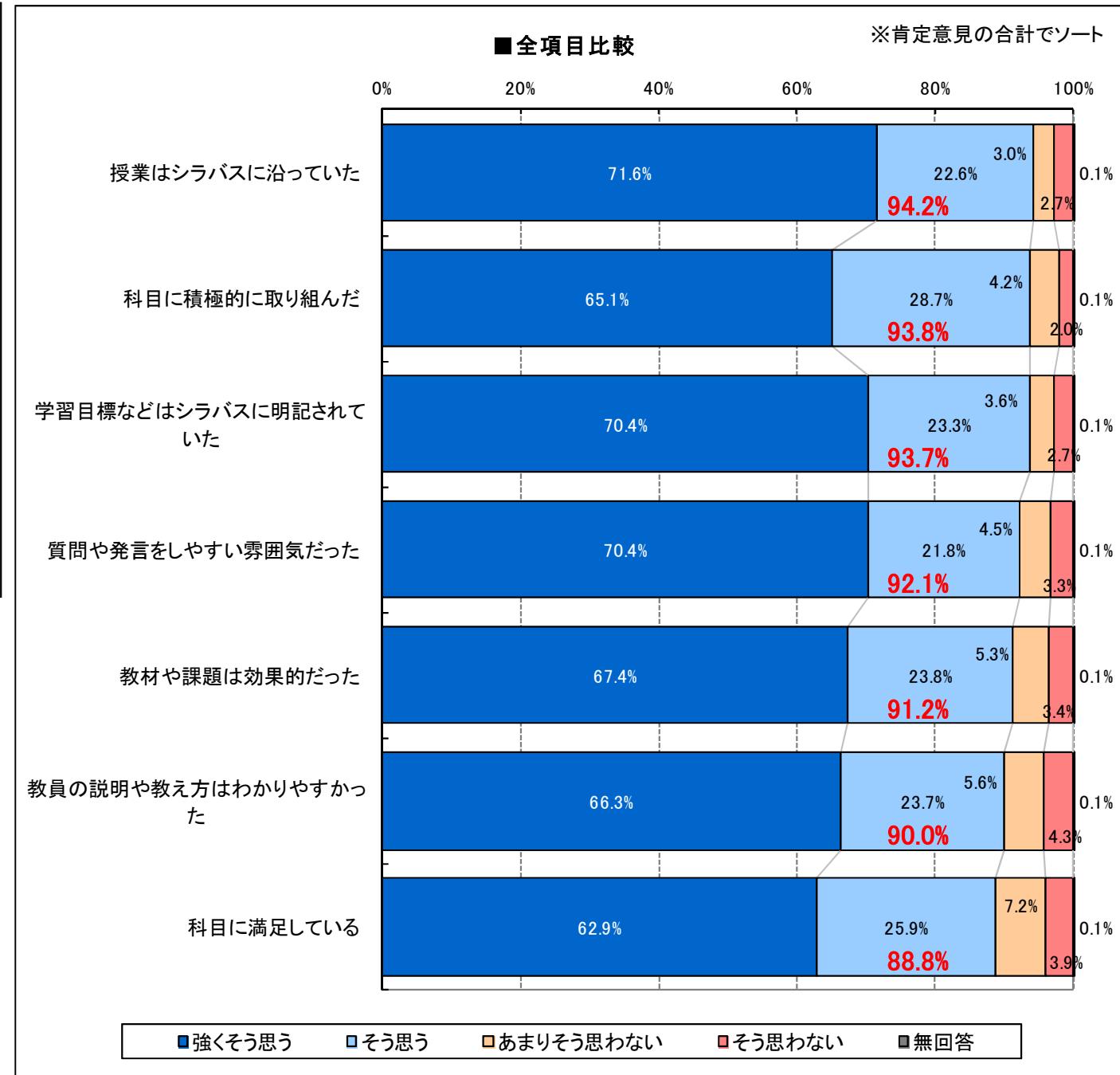


- 「科目に積極的に取り組んだ」に対しては、「強くそう思う」が65.1%、「そう思う」が28.7%で、肯定的な意見の合計は93.8%となっていた。前回より0.4ポイントとわずかに減少したものの、「強くそう思う」は2.5ポイント増加しており、結果的に積極性は増しているようであった。
- 「科目に満足している」は「強くそう思う」が62.9%、「そう思う」が25.9%であり、肯定的な意見の合計は88.8%と非常に高い「満足度」となっていた。一方、否定的な意見の合計は11.1%であり、全体の1割が不満を感じていた。そして、前回と比較すると、「満足度」は3.5ポイントの低下となっていたが、「強くそう思う」は0.9ポイントとわずかに増加していた。



2) 全項目比較

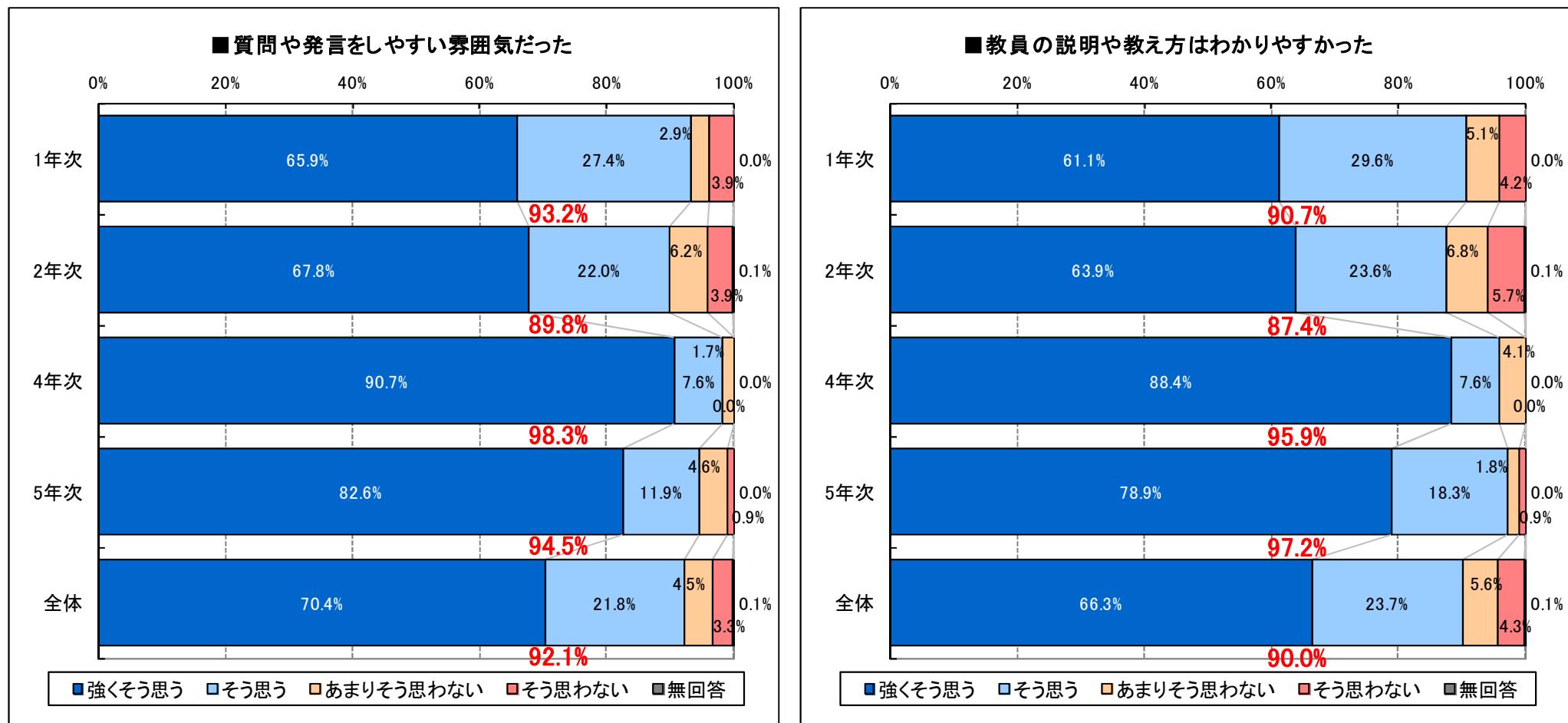
- 科目に関する8項目のうち、「1回の授業に対する学習時間」を除く7項目を一覧で比較し、肯定的な意見の合計でソートしている。
 - 肯定的な意見の合計が最も多かったのは「授業はシラバスに沿っていた」の94.2%であり、「科目に積極的に取り組んだ」が93.8%、「学習目標などはシラバスに明記されていた」が93.7%と続いており、「シラバス」に関する2つの項目の評価が高かった。
 - 一方、肯定的な意見の合計が最も少なかったのは「科目に満足している」の88.8%であった。9割に近い「満足度」は決して低くないものと思われるが、「積極性」の高さと比較すると、少し低さが気になった。



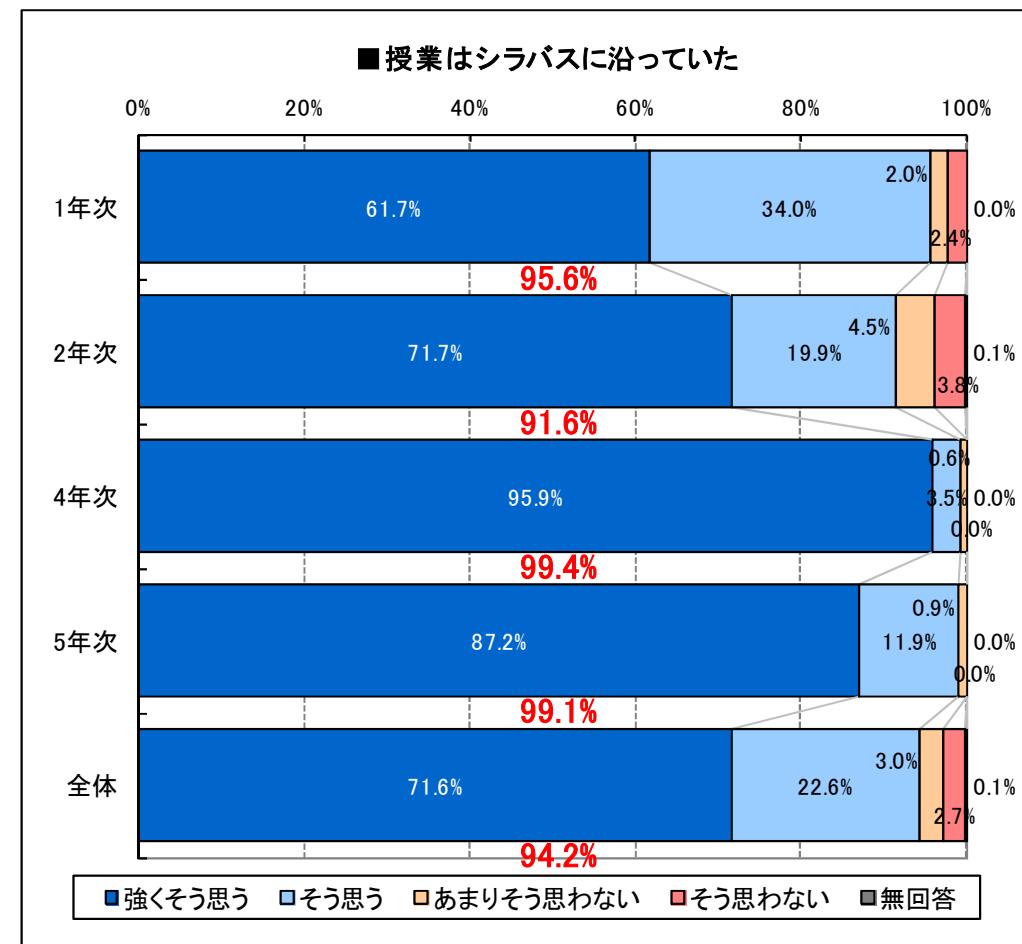
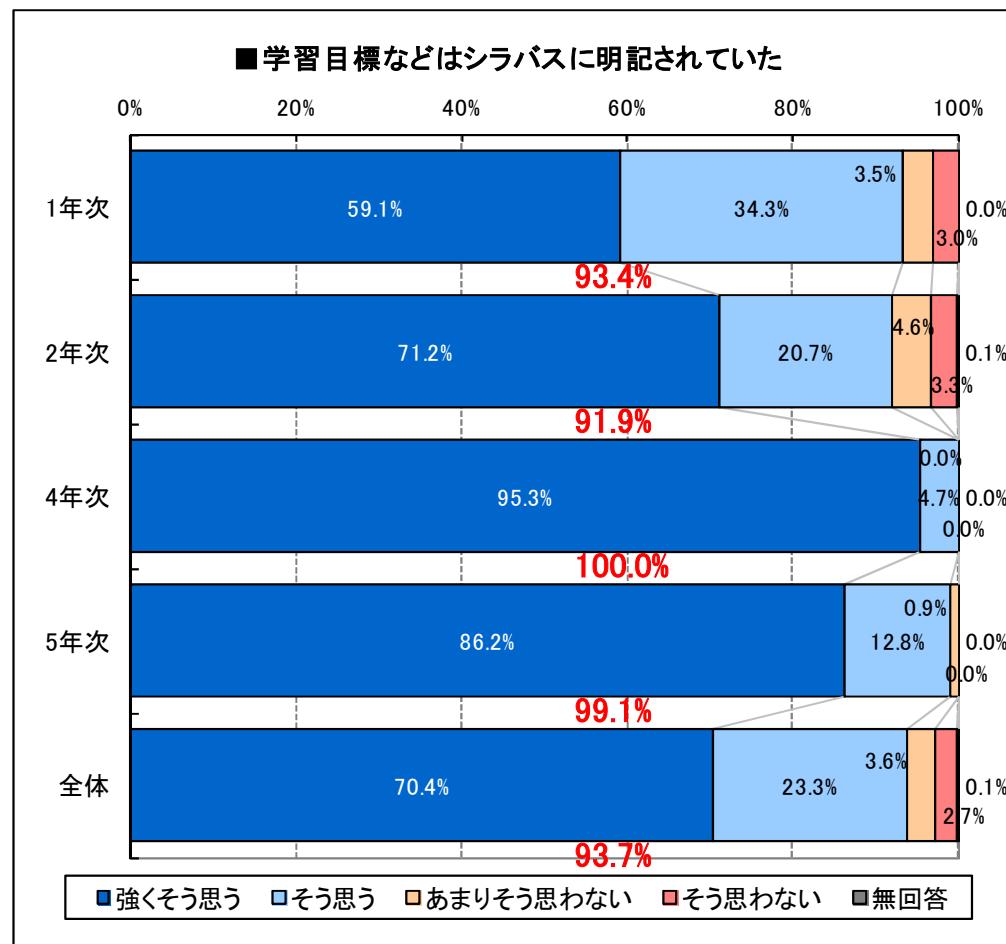
<3>学年別比較について

1)学年別比較

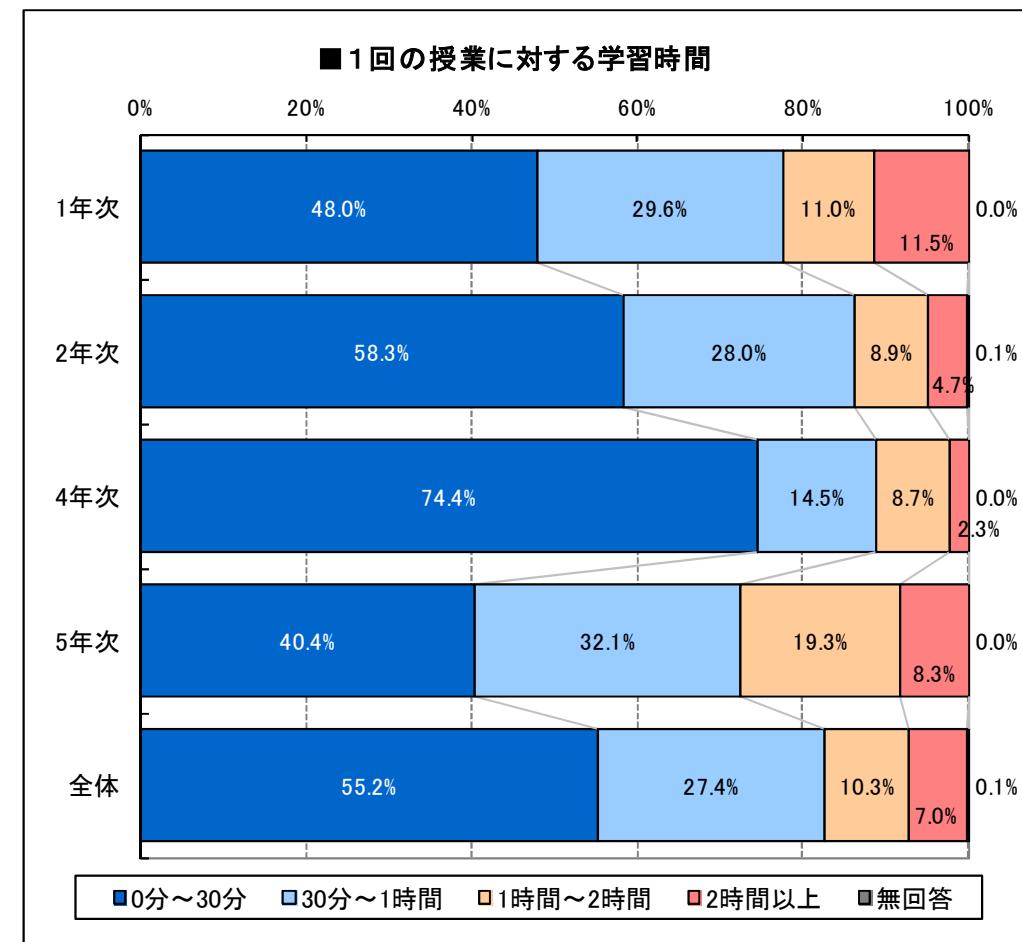
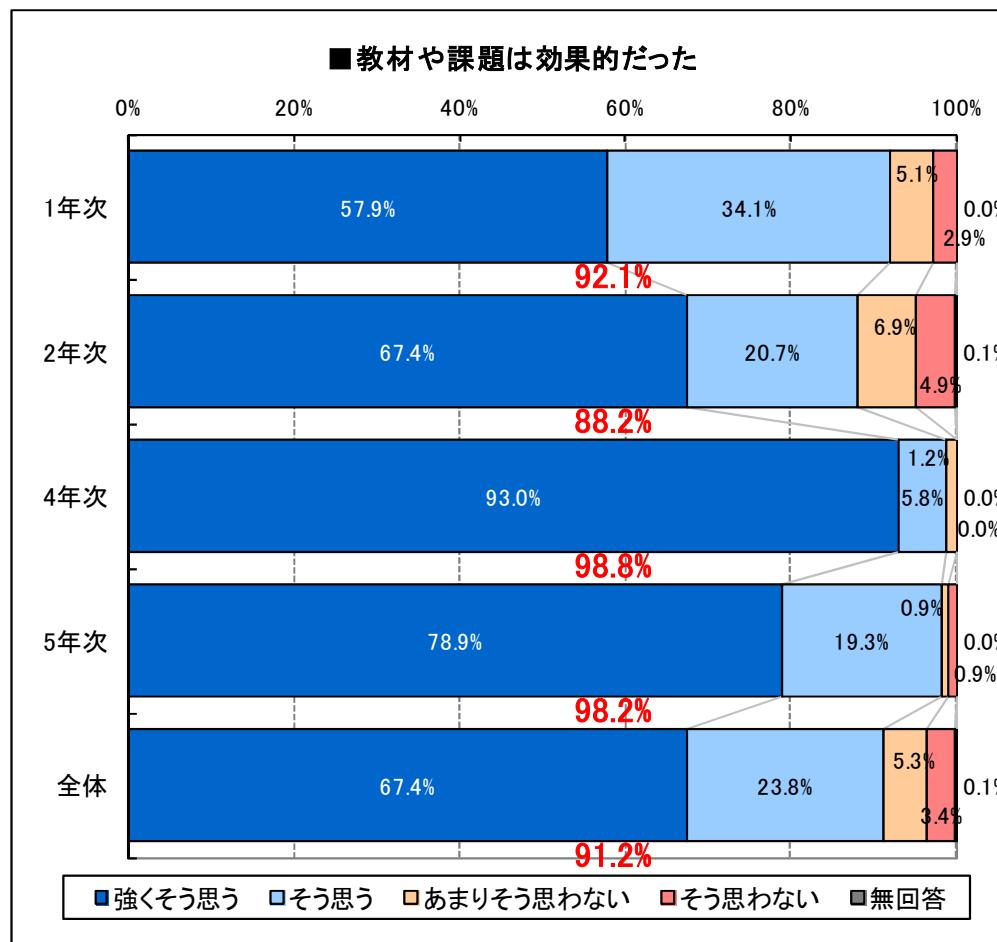
- 学年別比較は留学中の「3年次」を除いた「1年次」「2年次」「4年次」「5年次」のデータを比較しており、グラフ中の赤文字は肯定的な意見の合計となる。
- 「質問や発言をしやすい雰囲気だった」の肯定的な意見の合計を学年別に比較すると、最も多かったのは「4年次」の98.3%であり、「5年次」が94.5%で続いている。この2学年は「強くそう思う」も多く、非常に高い評価となっていた。「1年次」「2年次」も肯定的な意見の合計は約9割で高い評価となっていたが、「強くそう思う」はやや少なかった。
- 「教員の説明や教え方はわかりやすかった」の肯定的な意見の合計は「5年次」が97.2%、「4年次」が95.9%と多く、特に「4年次」では「強くそう思う」が88.4%と、非常に高い評価となっていた。そして、「1年次」「2年次」も肯定的な意見の合計は約9割であったが、「強くそう思う」はやや少なく、「そう思わない」が約5%となるなど、「4年次」「5年次」と比べると厳しい評価となっていた。



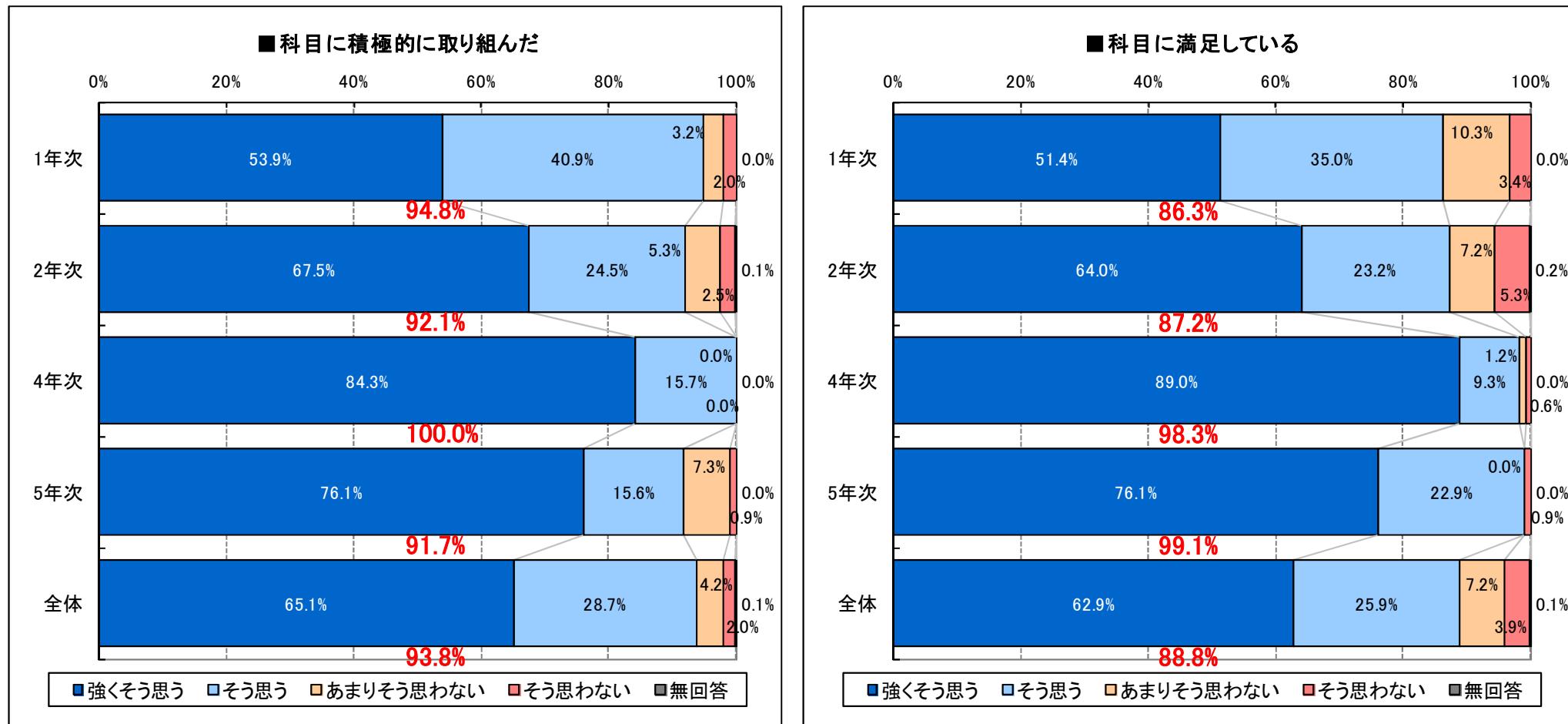
- 「学習目標などはシラバスに明記されていた」の肯定的な意見の合計は「4年次」が100%、「5年次」が99.1%で、「強くそう思う」はいずれも8割を超えており、非常に高い評価となっていた。続いて、「1年次」が93.4%、「2年次」が91.9%であり、これらも十分に高い評価であった。
- 「授業はシラバスに沿っていた」の肯定的な意見の合計は「4年次」が99.4%で最も多く、「強くそう思う」が95.9%と非常に高い評価となっていた。次いで、「5年次」の合計が99.1%で、この2学年の高さが目立っていた。そして、「1年次」が95.6%、「2年次」が91.6%であり、いずれも十分に高い評価であったが、「強くそう思う」はやや少なかった。



- 「教材や課題は効果的だった」の肯定的な意見の合計も「4年次」が98.8%で最も多く、「5年次」が98.2%で続いており、「4年次」では「強くそう思う」が93.0%と多さが目立っていた。次いで、「1年次」が92.1%、「2年次」が88.2%と高い評価となっていたが、「1年次」は「強くそう思う」が57.9%とやや少なかった。
- 「1回の授業に対する学習時間」で学習時間の短い「0分～30分」を比較すると、「4年次」が74.4%と最も多かった。「4年次」は「2時間以上」「1時間～2時間」も少なく、学習時間が短いようであった。一方、学習時間が長かったのは「1年次」と「5年次」であり、「2時間以上」は「1年次」で11.5%、「5年次」で8.3%と多く、「0～30分」は各々48.0%、40.4%と少なかつた。学年との関係を見ると、「1年次」から「4年次」にかけては学習時間が短くなる傾向が見られたが、「5年次」で一気に長くなっている、カリキュラムとの関係などがあるものと思われる。

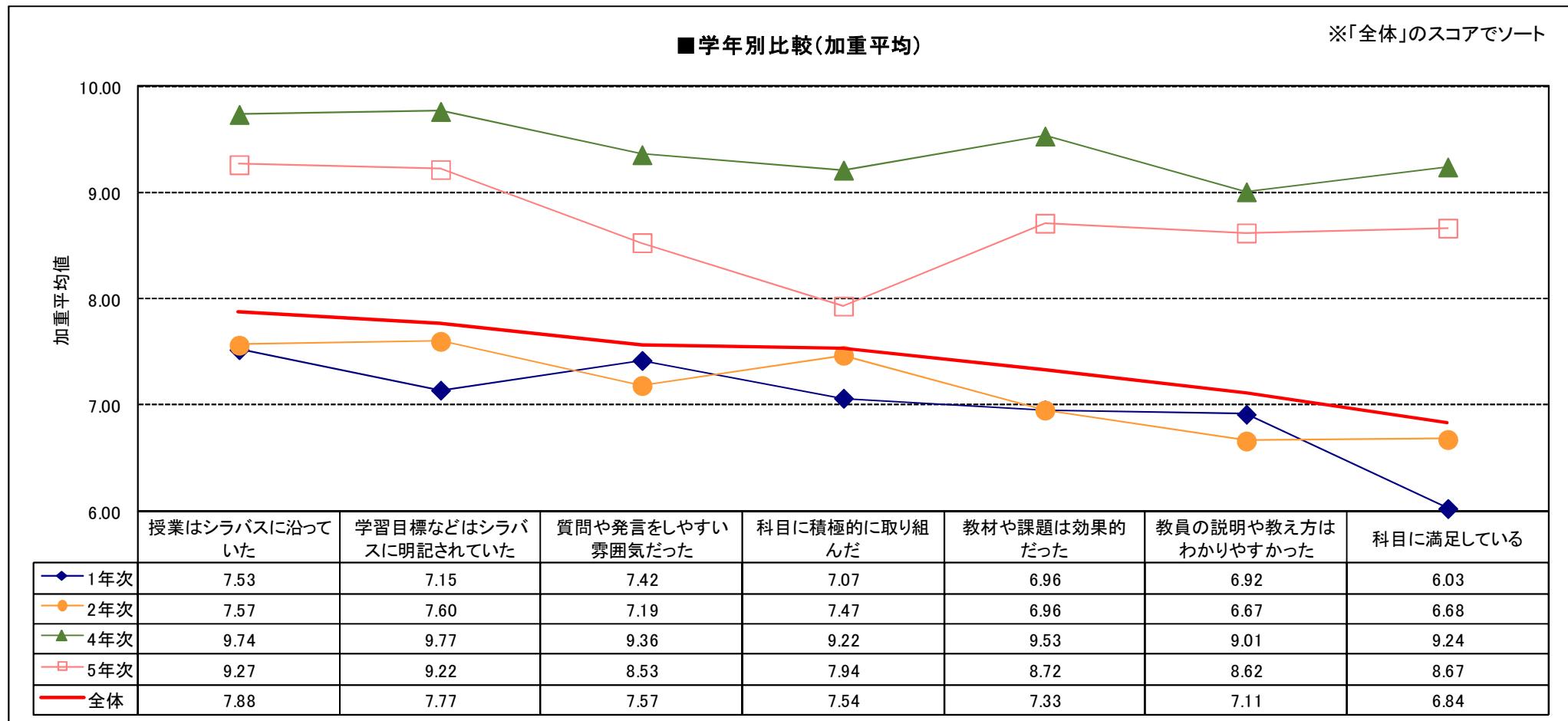


- 「科目に積極的に取り組んだ」の肯定的な意見の合計は「4年次」が100%であり、「強くそう思う」も84.3%と非常に多かった。肯定的な意見の合計は「1年次」が94.8%、「2年次」が92.1%、「5年次」が91.7%と続いているが、それほど大きな差ではなかったが、「強くそう思う」だけを見ると、「1年次」から「4年次」にかけて増加し、「5年次」で減少する傾向となっていた。
- 「科目に満足している」で肯定的な意見の合計が最も多かったのは「5年次」の99.1%であり、「4年次」が98.3%、「2年次」が87.2%、「1年次」が86.3%と続いているが、他の項目とはやや異なる傾向となっていた。しかし、「強くそう思う」だけを見ると「1年次」から「4年次」にかけては増加する傾向で、「4年次」では89.0%と多さが目立っていた。そして、「5年次」でやや減少して76.1%となっており、この傾向は上記の「積極性」をはじめとする他の多くの項目と共通するものであった。



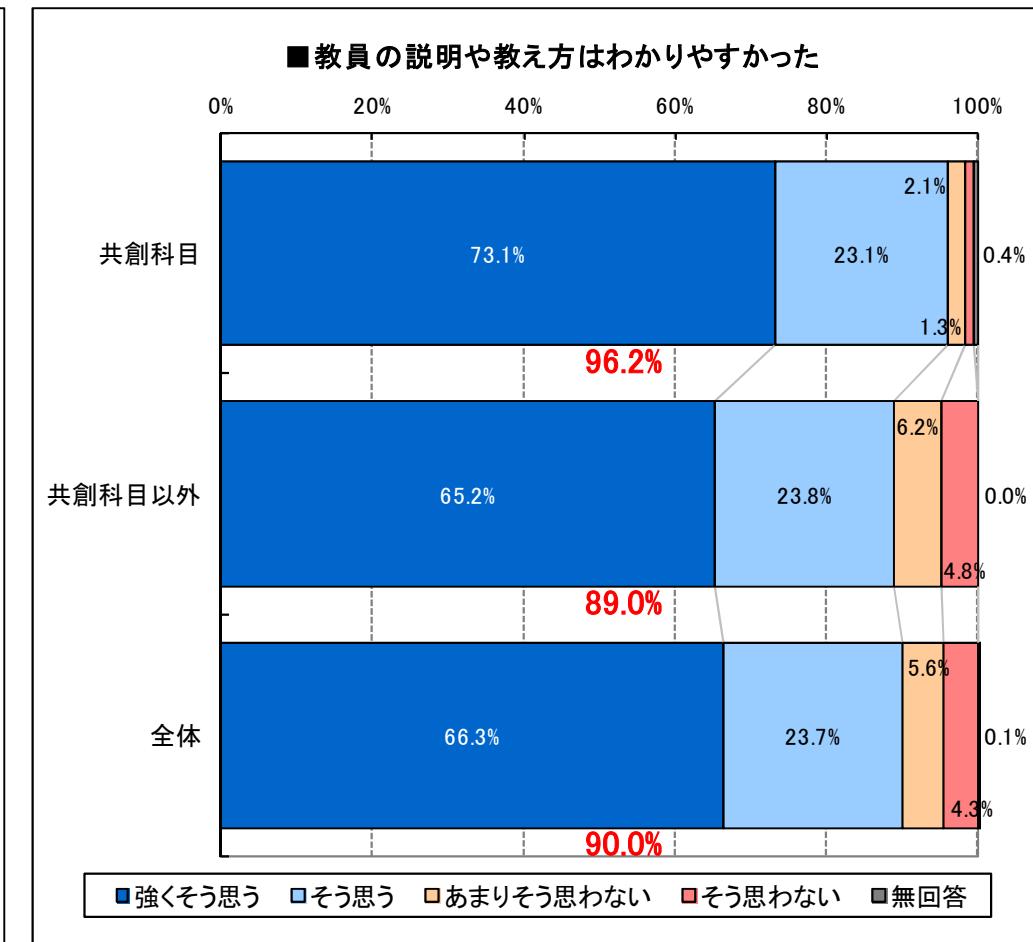
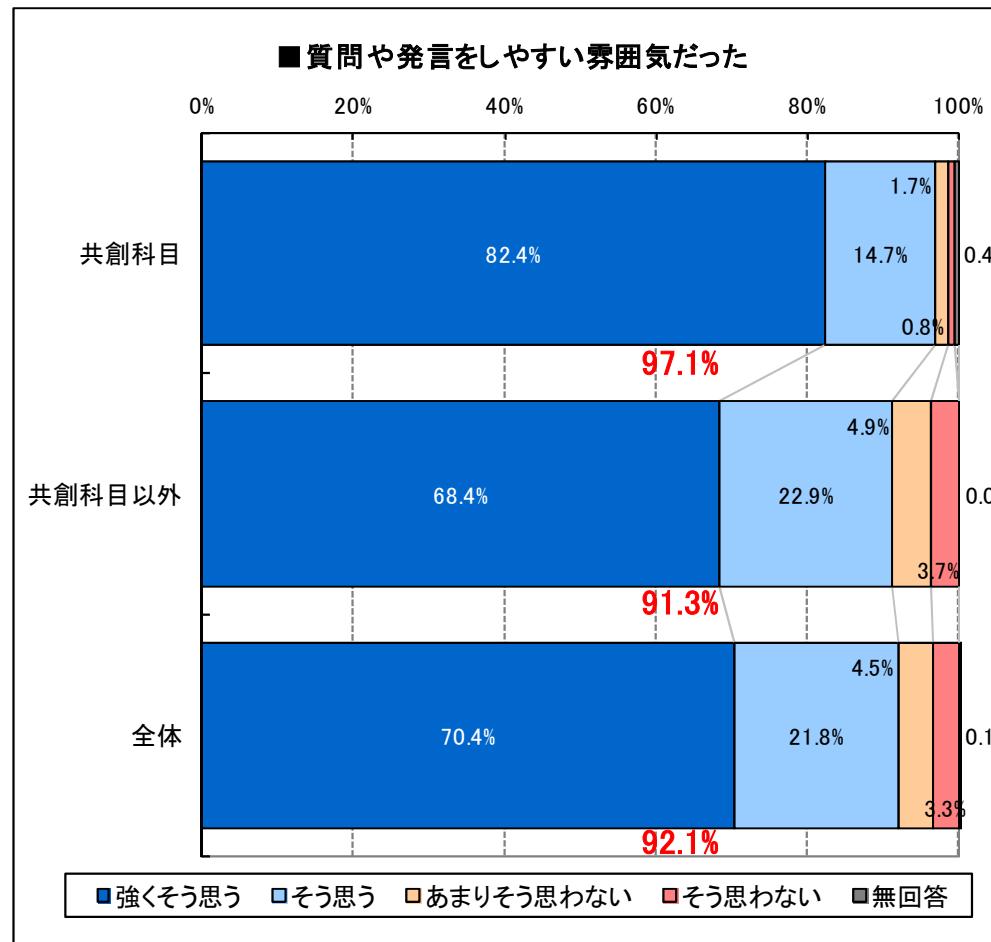
2)全項目の学年別比較

- 「1回の授業に対する学習時間」を除く7項目の評価を、加重平均で学年別に比較した。結果は「全体」のスコアでソートしている。
- 肯定的な意見の合計や「強くそう思う」は「1年次」から「4年次」にかけて増加し、「5年次」でやや低下する傾向が見られたが、当然ながら加重平均でも同じような傾向となり、すべての項目で「4年次」が最も高く、「5年次」がそれに次ぐ高さとなっていた。この2学年の差を見ると、「科目に積極的に取り組んだ」の評価の差が大きく「4年次」が非常に高い点が特徴的であった。
- 「1年次」と「2年次」の差を加重平均で見ると、パーセンテージで見たような明確な差は見られなかったが、「1年次」で「科目に積極的に取り組んだ」と「科目に満足している」が低かった。入学して1年の段階で、この2項目が低い点は気になるものと言える。

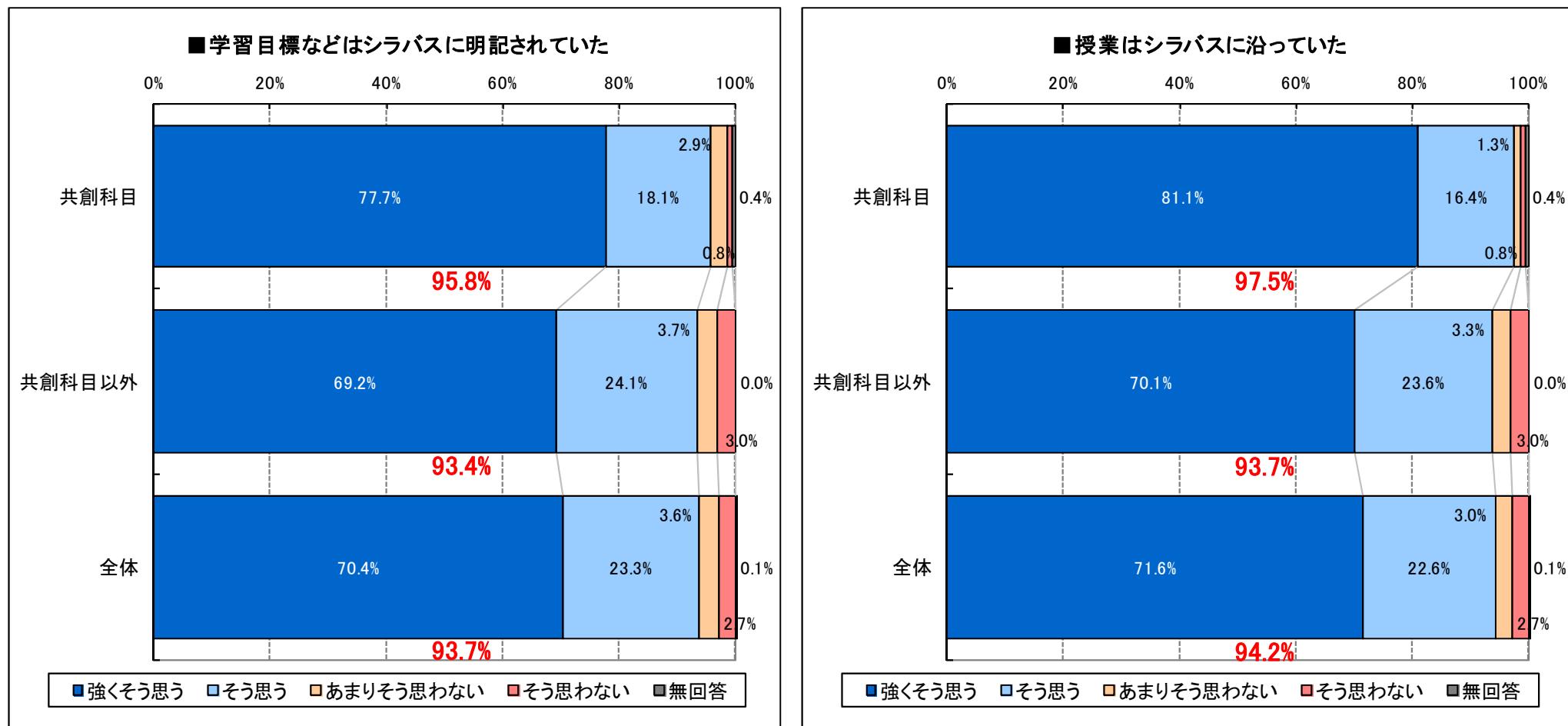


1)科目について

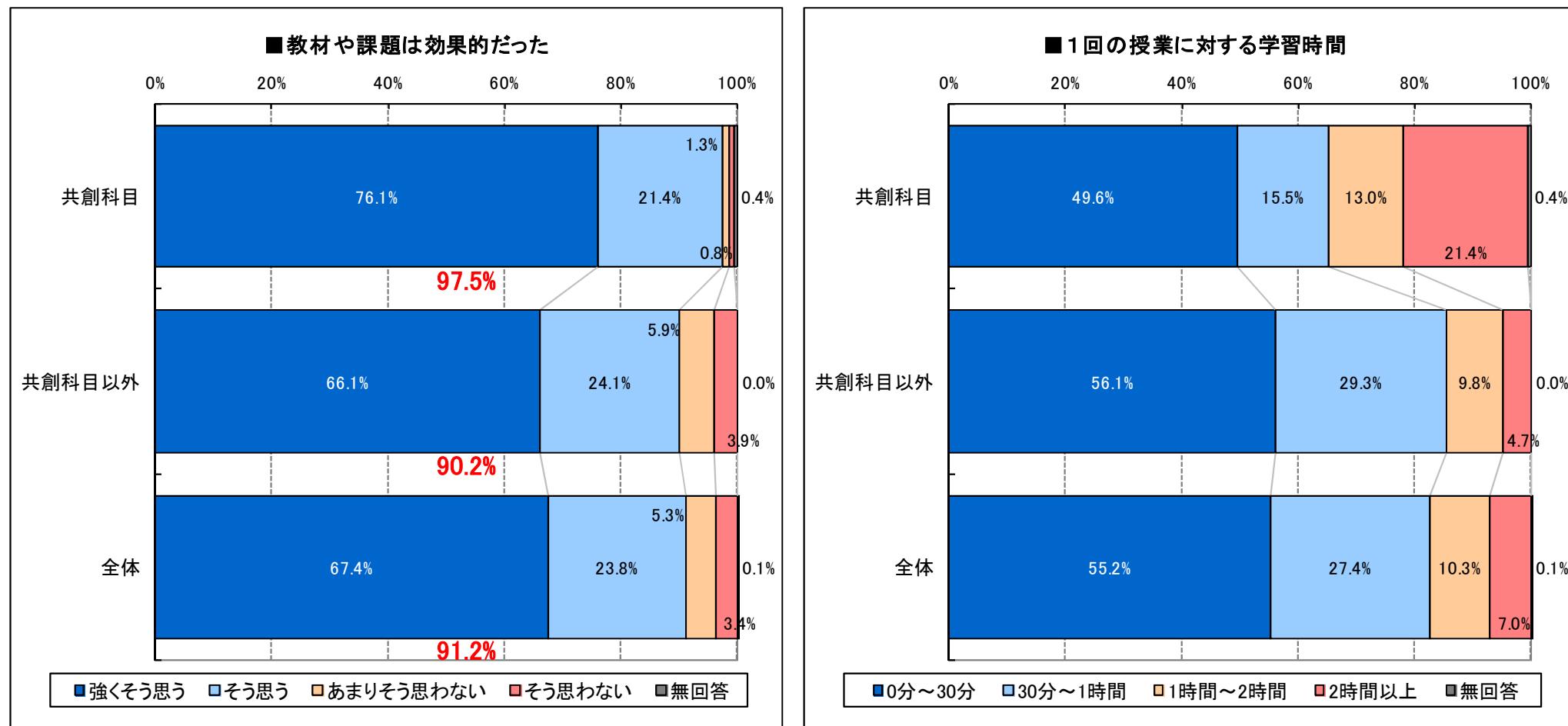
- 「共創科目」は「エンジニアリングデザイン」の総称で、今回は8科目で238サンプルが対象となっており、ここでは「共創科目以外の科目」との差を比較している。
- 「質問や発言をしやすい雰囲気だった」の肯定的な意見の合計は、「共創科目」が97.1%、「共創科目以外」が91.3%であり、「共創科目」の方が5.8ポイント多かった。そして、「強くそう思う」も「共創科目」が82.4%であり、「共創科目以外」を上回っていた。
- 「教員の説明や教え方はわかりやすかった」の肯定的な意見の合計は、「共創科目」が96.2%、「共創科目以外」が89.0%であり、「共創科目」の方が7.2ポイント多かった。そして、「強くそう思う」も「共創科目」が73.1%であり、「共創科目以外」を上回っていた。



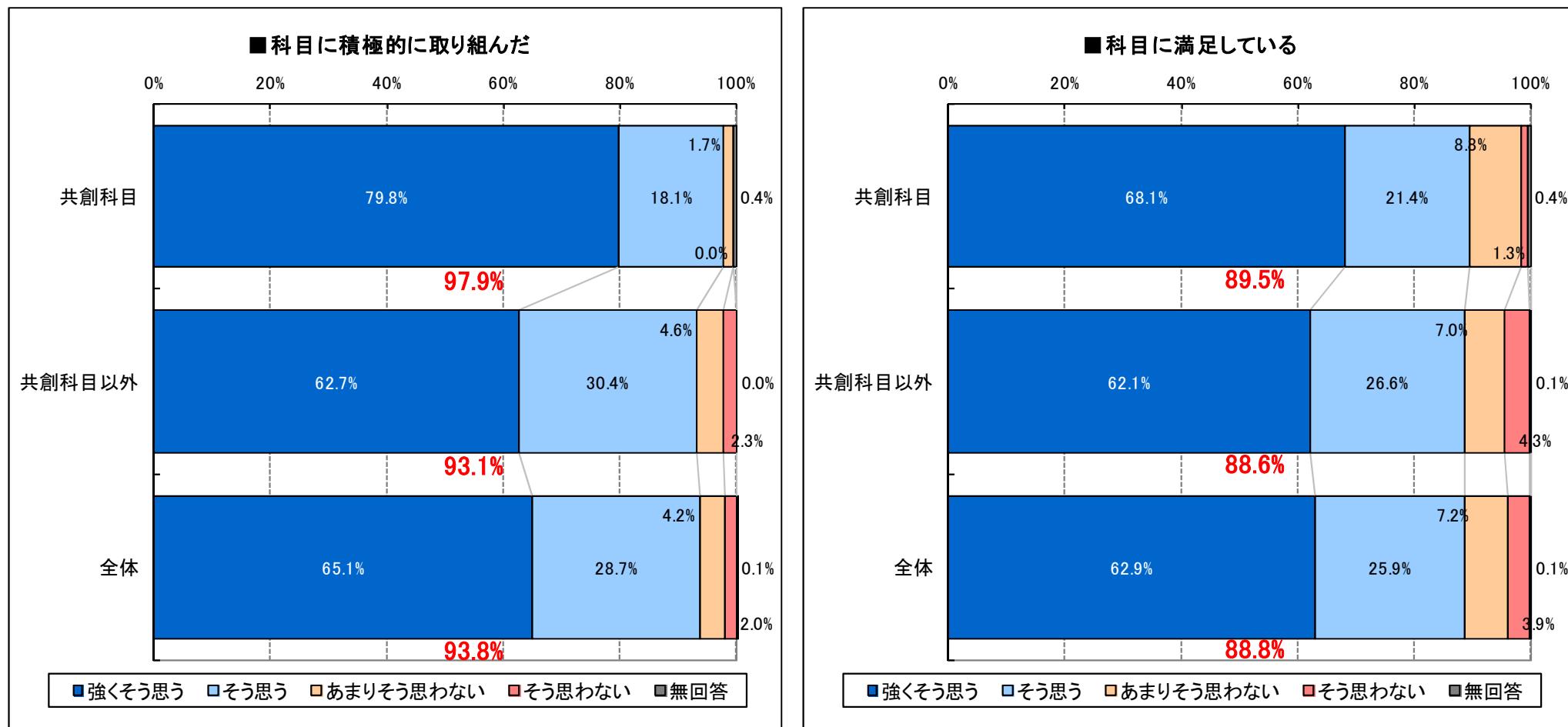
- 「学習目標などはシラバスに明記されていた」の肯定的な意見の合計は、「共創科目」が95.8%、「共創科目以外」が93.4%であり、「共創科目」の方が2.4ポイントとわずかに上回っていた。ただし、「強くそう思う」は「共創科目」が77.7%、「共創科目以外」が69.2%で、差は8.5ポイントであった。
- 「授業はシラバスに沿っていた」の肯定的な意見の合計は、「共創科目」が97.5%、「共創科目以外」が93.7%であり、いずれも高い評価であったが、「共創科目」の方が3.8ポイント多かった。そして、「強くそう思う」も「共創科目」は81.1%と多く、「共創科目以外」を11.0ポイント上回っていた。



- 「教材や課題は効果的だった」の肯定的な意見の合計は、「共創科目」が97.5%、「共創科目以外」が90.2%であり、「共創科目」の方が7.3ポイント多かった。そして、「強くそう思う」は「共創科目」が76.1%、「共創科目以外」が66.1%で、差は10.0ポイントであった。
- 「1回の授業に対する学習時間」で学習時間の短い「0分～30分」を比較すると、「共創科目」が49.6%、「共創科目以外」が56.1%であり、「共創科目」の方が6.5ポイント少なかった。一方、学習時間が長い層である「2時間以上」を見ると、「共創科目」が21.4%、「共創科目以外」が4.7%で、16.7ポイントと大きな差となっていた。これらの差を見ると「共創科目」に対してはしっかりと学習時間が確保されているようであった。

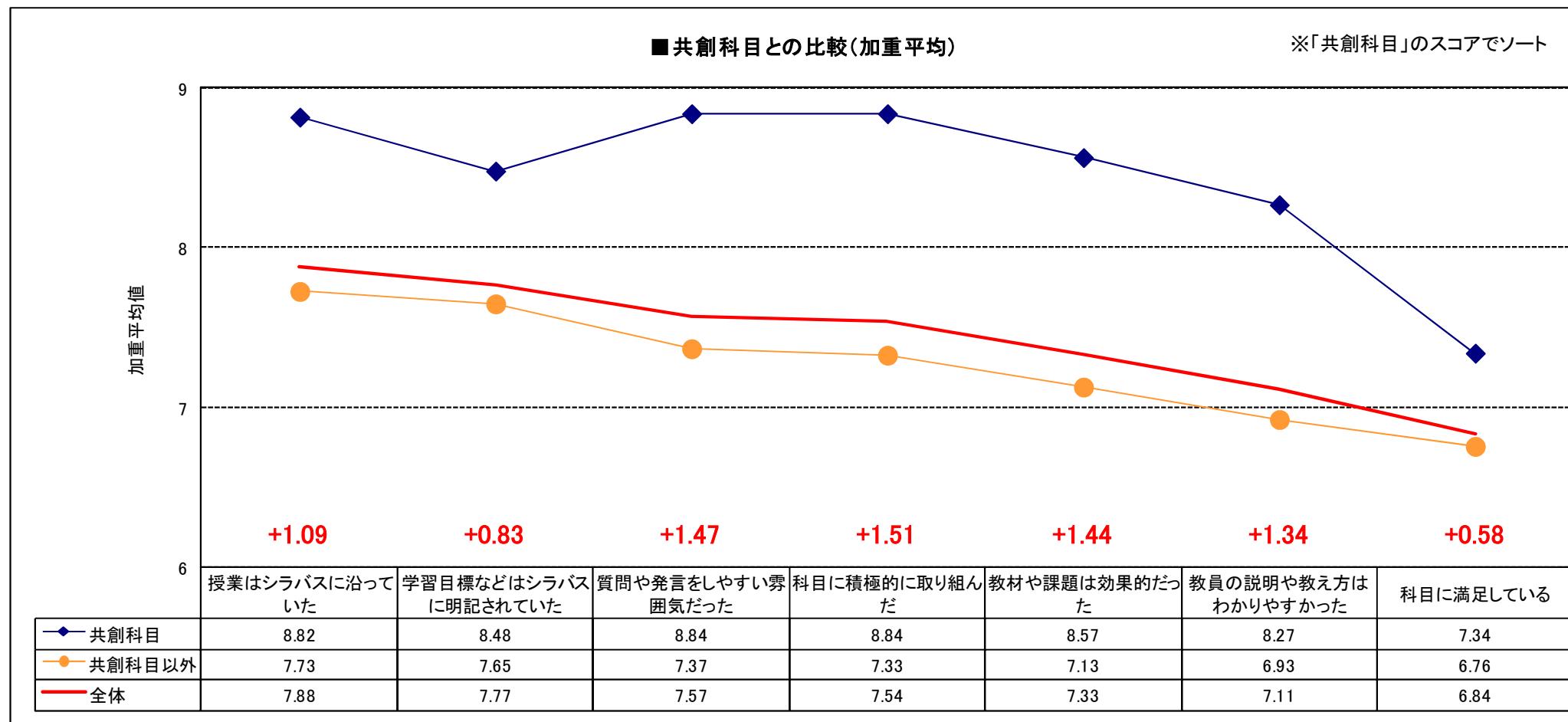


- 「科目に積極的に取り組んだ」の肯定的な意見の合計は、「共創科目」が97.9%、「共創科目以外」が93.1%であり、差は4.8ポイントであった。ただし、「強くそう思う」は「共創科目」が79.8%、「共創科目以外」が62.7%で、差は17.1ポイントと大きく、「共創科目」に積極的に取り組んでいる様子がうかがえた。
- 「科目に満足している」の肯定的な意見の合計は、「共創科目」が89.5%、「共創科目以外」が88.6%であり、ほぼ同じ満足度となっていたが、いずれも約1割が不満を感じていた。「強くそう思う」は「共創科目」が68.1%、「共創科目以外」が62.1%で差は6.0ポイントとなっており、強く満足しているという意見は「共創科目」の方が多いかった。



2)科目についての全項目比較

- 「共創科目」ととの比較に関しても、「1回の授業に対する学習時間」を除く7項目の評価を加重平均で見ており、グラフは「共創科目」のスコアでソートしている。そして、赤太文字で両者の差を表記している。
- ここまでに見てきたように、すべての項目で「共創科目」のスコアの方が高く、いずれも非常に高い評価であった。「共創科目以外」との差が最も大きかったのは、「科目に積極的に取り組んだ」の+1.51であり、「質問や発言をしやすい雰囲気だった」が+1.47、「教材や課題は効果的だった」が+1.44で続いていた。一方、差が最も小さかったのは「科目に満足している」の+0.58で、「共創科目」と「共創科目以外」の満足度には大きな差がないようであった。

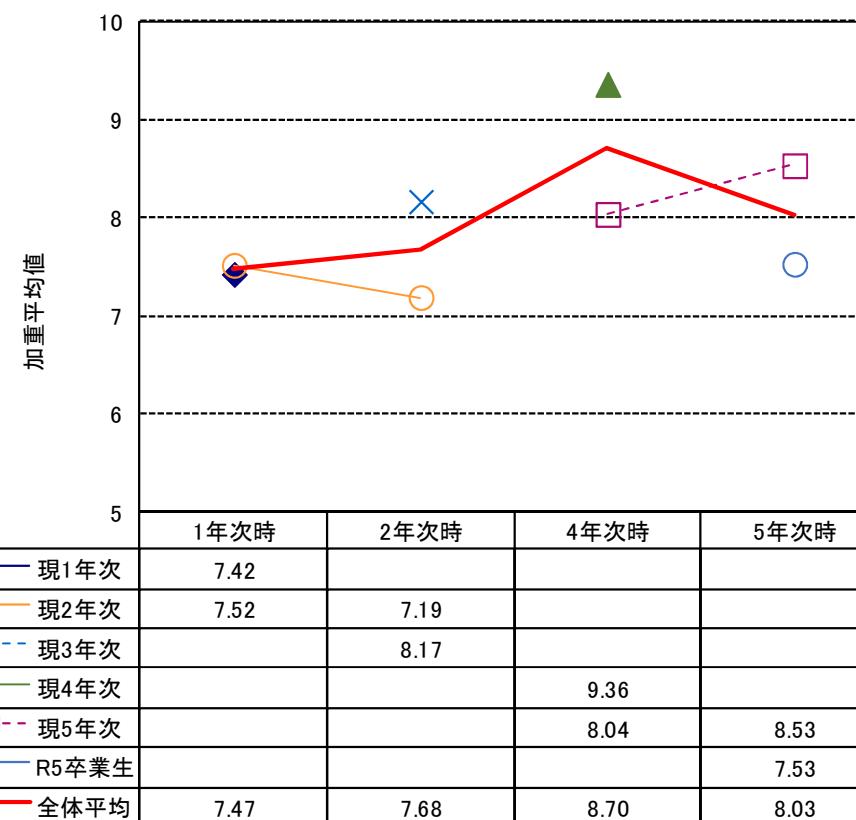


<5>同一学生群の年度別比較

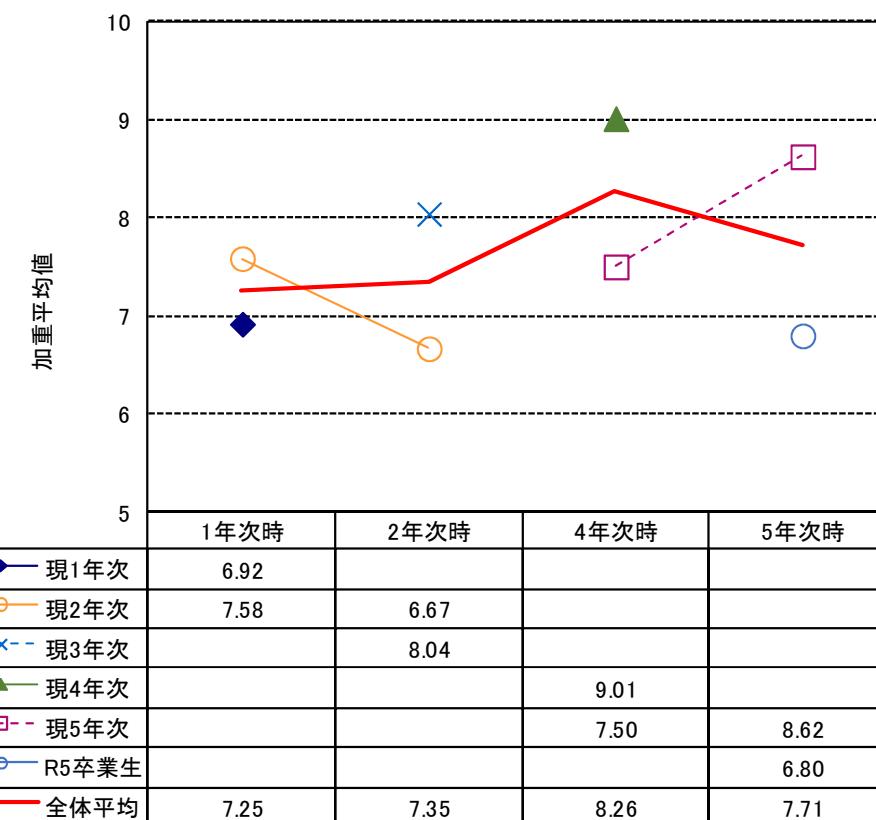
1)科目について

- 「科目について」の7項目が学年が上がる中でどのように変化しているか、同一学生群の変化を見ている。授業アンケートの質問項目を見直して今回が2回目となるため、継続して比較できるのは「現2年次」の「1年次時」から「2年次時」、「現5年次」の「4年次時」から「5年次時」にかけての変化だけとなる。
- 「質問や発言をしやすい雰囲気だった」の「現2年次」は低下、「現5年次」は向上していたが、変化の幅は小さかった。そして、「全体平均」を見ると、「1年次時」が低めであり、「2年次時」にかけては横ばい、「4年次時」で向上して「5年次時」で低下していた。
- 「教員の説明や教え方はわかりやすかった」の「現2年次」は「1年次時」から「2年次時」にかけて大きく低下していた。一方、「現5年次」は「4年次時」から「5年次時」にかけて大きく向上していた。「全体平均」を見ると、「1年次時」から「2年次時」にかけては横ばい、「4年次時」で向上して「5年次時」に低下しており、上記と同じ傾向となっていた。

■質問や発言をしやすい雰囲気だった・同一学生群の変化

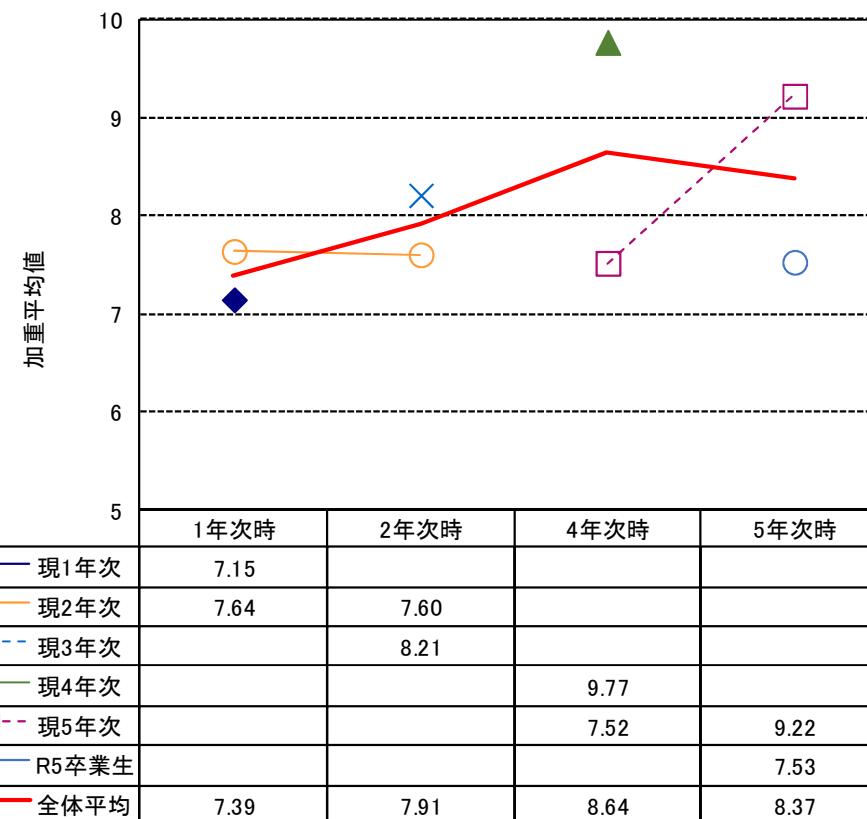


■教員の説明や教え方はわかりやすかった・同一学生群の変化

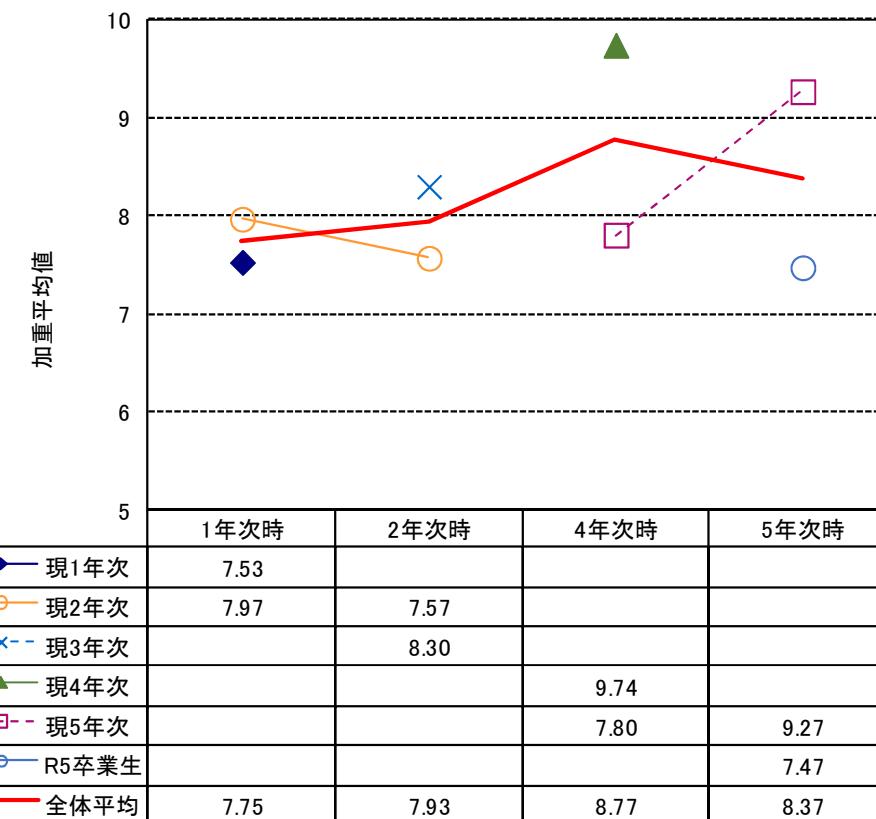


- 「学習目標などはシラバスに明記されていた」の「現2年次」は「1年次時」から「2年次時」にかけて横ばいであったが、「現5年次」は「4年次時」から「5年次時」にかけて大きく向上して、非常に高い評価となっていた。「全体平均」を見ると「1年次時」から「4年次時」にかけて向上していたが、「4年次時」の2つの学生群の評価には大きな差が出ていた。そして、「5年次時」にはわずかに低下しており、この時点の2つの学生群の評価にも差が見られた。
- 「授業はシラバスに沿っていた」の「現2年次」は「1年次時」から「2年次時」にかけてはわずかに低下していたが、「現5年次」は「4年次時」から「5年次時」にかけて大きく向上していた。「全体平均」を見ると、「1年次時」から「2年次時」にかけてはわずかに向上しており、いずれも学生群同士の差は少なかった。そして、「4年次時」にかけても向上して高い評価となり、「5年次時」には低下していたが、この間の学生群同士の差は大きく、意見が分かれるようであった。

■学習目標などはシラバスに明記されていた・同一学生群の変化

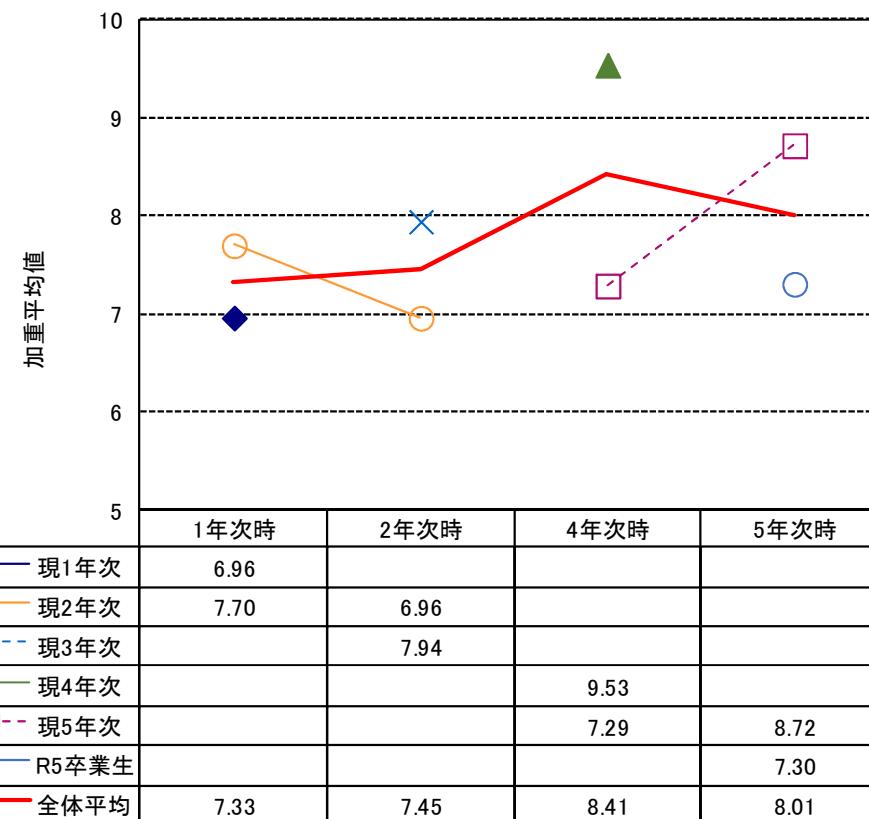


■授業はシラバスに沿っていた・同一学生群の変化

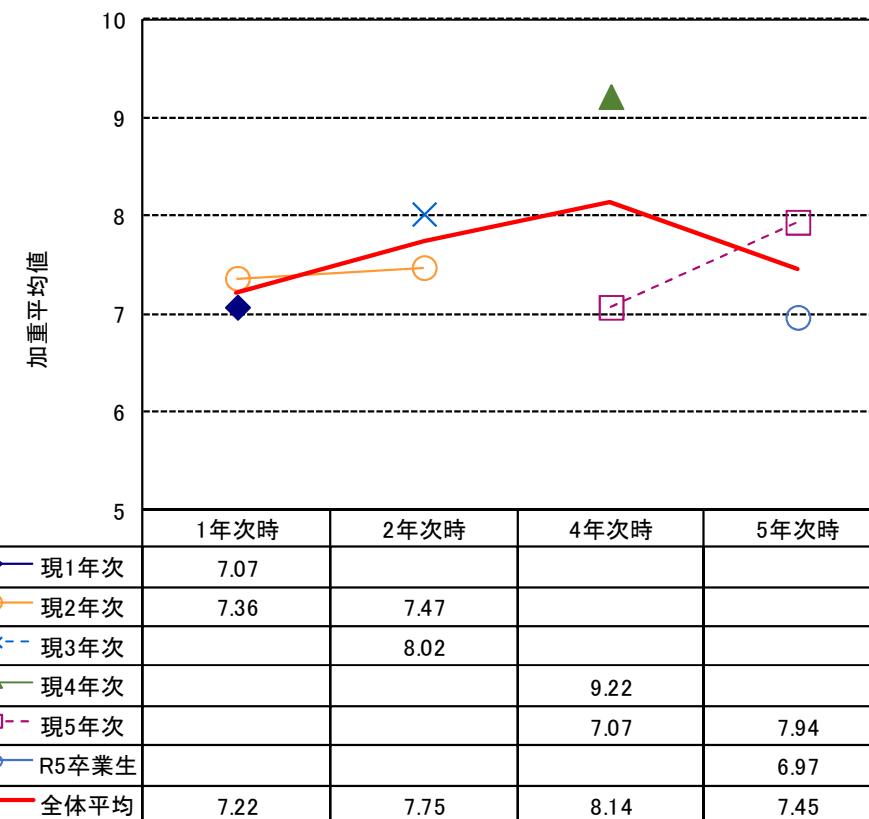


- 「教材や課題は効果的だった」の「現2年次」は「1年次時」から「2年次時」にかけて低下し、「現5年次」は「4年次時」から「5年次時」にかけて向上しており、他の項目と似た傾向となっていた。「全体平均」は「1年次時」から「2年次時」にかけてわずかに向上し、学生群同士の差は小さかった。そして、「4年次時」には向上していたが、この段階での学生群同士の差は大きく、特に「現4年次」の評価は高かった。
- 「科目に積極的に取り組んだ」の「現2年次」は「1年次時」から「2年次時」にかけては横ばいで、「現5年次」は「4年次時」から「5年次時」にかけて少し向上していた。「全体平均」を見ると、「1年次時」から「2年次時」にかけて、また、「4年次時」にかけては徐々に積極性が高まる傾向が見られた。ただし、学生群同士の差を見ると、「1年次時」と「2年次時」では学生群同士の差は非常に小さかったが、「4年次時」には大きな差となっており、学生群によって積極性が異なっていた。そして、「5年次時」には積極性が低下し、学生群同士の差も小さくなっていた。

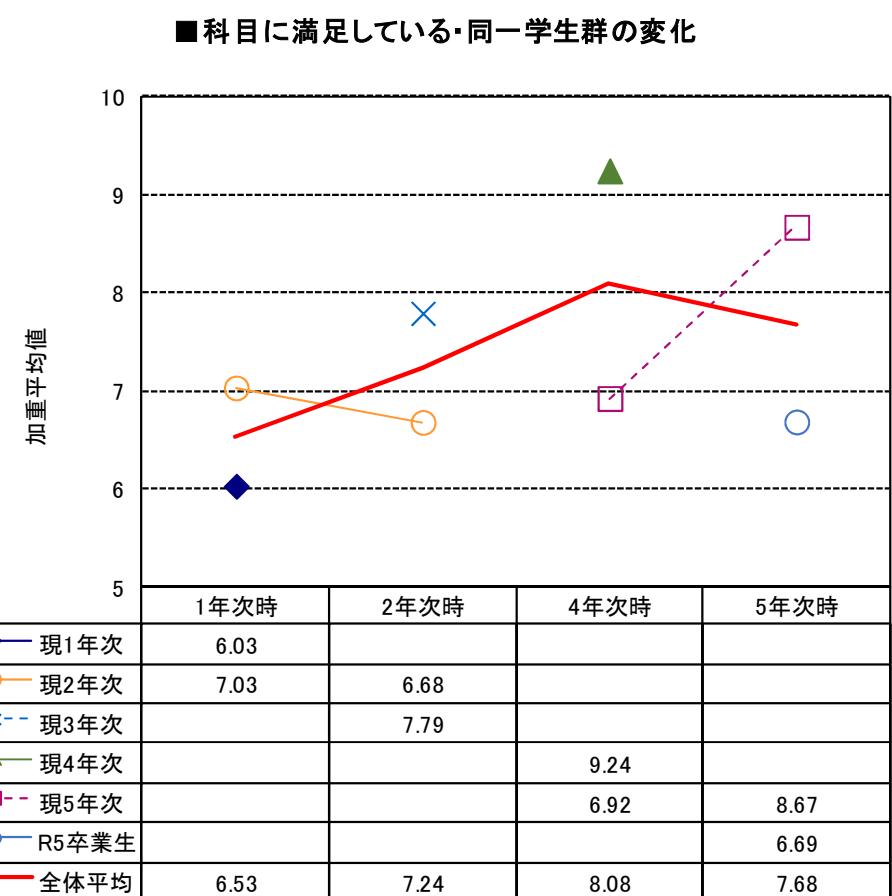
■教材や課題は効果的だった・同一学生群の変化



■科目に積極的に取り組んだ・同一学生群の変化



- 「科目に満足している」の「現2年次」は「1年次時」から「2年次時」にかけて低下し、「現5年次」は「4年次時」から「5年次時」にかけて大きく向上して、高い満足度となっていた。「全体平均」で満足度の変化を見ると、「1年次時」から「4年次時」にかけて徐々に向上し、「5年次時」にはわずかに低下していた。
- 学生群同士の差を見ると、「1年次時」では「現1年次」の満足度の低さが目立っていた。一方、「現4年次」は今回の「4年次時」に非常に高い満足度であり、「現5年次」は上記でも見たように「4年次時」の低さから「5年次時」には大きく向上しており、高い満足度で卒業に至っていた。
- 授業アンケートの質問項目の見直しをした後の卒業生である「R5卒業生」は、残念ながら非常に低い満足度で卒業しており、今後はこの満足度を上げることが重要なポイントになると思われる。



令和6年度

I C T 授業アンケート調査結果[報告書]

- 発行日 令和7年11月1日
 - 発行者 国際高等専門学校
 - 調査票設計・分析 有限会社 アイ・ポイント
 - 編集 金沢工業大学企画部 C S 係
-

無断複製厳禁

再生紙を使用しています